

平成28年度
ふくい高校生県議会



福井県議会

平成28年度ふくい高校生県議会の日程

開催日：平成28年8月5日(金)

11:00～11:20 開会
(第1委員会室)

議会運営委員会

- 本日の日程
- 本会議の進め方
- 質問および議長役の順序の決定
 - ・仁愛女子→羽水→武生東→藤島→武生→福井商業→勝山→鯖江→若狭
- 決議案の取り扱い

11:25～11:40
(議場他)

リハーサル（議事堂見学を含む）

- 議長・副議長室等を見学、議場でのリハーサル

11:45～12:20
(大会議室・中会議室)

昼食

- ・大会議室…羽水、鯖江、武生、武生東、福井商業
- ・中会議室…藤島、勝山、若狭、仁愛女子

12:30～15:00
(議場)

本会議

- 県議会議長 あいさつ
 - 議会運営委員会で決定した順に
 - ・議長役が進行
 - ・各高校の議員役が質問
 - ・県議会議員が答弁（本来は知事および関係部局長）
 - ・5つの高校が終了後、休憩
 - 決議（案）採決 [決議案の朗読、討論、採決]
 - 県議会副議長 総評
- インターネット中継
<http://info.pref.fukui.lg.jp/gikai/live/index.koukouseikengikai.html>

インターネット中継



15:10～15:40
(大会議室・中会議室)

意見交換会

- 2グループに分かれて実施
 - ・大会議室…羽水、鯖江、武生、武生東、福井商業
 - ・中会議室…藤島、勝山、若狭、仁愛女子

15:45～16:00
(議場)

写真撮影

参加高校生名簿

【藤島高校】

チーム「わびさび」

氏名	学年	備考
しみず ゆうか 清水 優花	2	
おか いゆうと 岡井 悠斗	2	議長
さはら なつほ 佐原 夏帆	1	議運委員
たかい ななこ 高井 菜奈子	1	議運委員

【羽水高校】

チーム「羽ing 水ing Something」

氏名	学年	備考
すず き ゆうた 鈴木 悠太	2	議長
やま もと たくみ 山本 拓弥	2	議運委員
はし もと しょうた 橋本 翔太	2	
わた なべ たかまさ 渡邊 尊暢	2	議運委員

【勝山高校】

チーム「三色だんご」

氏名	学年	備考
せん きょう あすか 千京 明日香	1	議運委員
なか や か すみ 仲谷 樺純	1	議運委員
ひがしかわ くれあ 東川 玖令亜	1	議長

【鯖江高校】

チーム「王山」

氏名	学年	備考
よこ い たいら 横井 泰良	2	議運委員
やま ぐち たつ ま 山口 立真	2	議長 (決議)
よし だ しゅう へい 吉田 周平	2	
しん し こう へい 進士 晃平	2	議運委員
なか にし ひろ や 中西 弘也	2	議長

【武生高校】

チーム「AOI」

氏名	学年	備考
たて いし そう 立石 想	2	議運委員 討論
ほり い しゅん 堀井 駿	2	議長
みたむら あゆむ 三田村 歩	2	議運委員

【武生東高校】

チーム「HINO」

氏名	学年	備考
みつ かわ てっ ぺい 光川 哲平	3	議長
にし むら はる の 西村 春乃	3	議運委員
さい とう みわ こ 齋藤 美和子	3	議運委員 討論

【若狭高校】

チーム「アベンジャーズ」

氏名	学年	備考
おく ひがし よし き 奥 東 由 己	3	
くま がい りょう いち 熊 谷 凌 一	3	議運委員
まつ み しゅん すけ 松 見 俊 佑	3	議 長
たる たに とも や 樽 谷 倫 矢	3	議運委員

【福井商業高校】

チーム「上田」

氏名	学年	備考
に き まさ ゆき 二 木 将 行	3	議 長
はた ゆう や 畑 佑 弥	3	議運委員 討 論
うえ だ りょう 上 田 諒	3	議運委員

【仁愛女子高校】

チーム「はぴらぶ」

氏名	学年	備考
すぎ やま み づき 杉 山 美 月	2	議 長
たつ た じゅん な 龍 田 惇 奈	2	
ひら た なお 平 田 直	2	議運委員
ふく たに あり さ 福 谷 有 紗	2	議運委員

※備考欄 議長：本会議での議長役、議運委員：議会運営委員会委員
討論：決議案採決時の討論者

参加県議会議員名簿

日 程	参加県議会議員
議会運営委員会	山岸猛夫（議会運営委員会委員長）
本 会 議	<p>挨拶：議長 仲倉典克</p> <p>答弁者： 山本 正雄 松井 拓夫 笹岡 一彦 佐藤 正雄 糀谷 好晃 大森 哲男 鈴木 宏紀 田中 宏典 島田 欽一 細川 かをり 小堀 友廣 力野 豊 辻 一憲 長田 光広 井ノ部航太 清水 智信</p> <p>総 評：副議長 畑 孝幸</p>
意見交換会	<p>【参加高校：羽水・鯖江・武生・武生東・福井商業】</p> <p>関 孝治 田中 敏幸 斉藤 新緑 田村 康夫 西畑 知佐代 小寺 惣吉</p> <p>【参加高校：藤島・勝山・若狭・仁愛】</p> <p>山本 芳男 石川 与三吉 野田 富久 西本 正俊 中井 玲子</p>

平成 28 年度 ふくい高校生県議会 一般質問発言一覧

8月5日(金)

チーム名 (高校名)	説明を求める 者の職・氏名	発 言 要 旨	議長役
王 山 (鯖 江)	県議会 議 員	1 人口減少対策について 2 北陸新幹線について	羽 ing 水 ing Something (羽 水) 鈴木 悠太
AOI (武 生)	県議会 議 員	1 福井県の人口減少対策について	三色だんご (勝 山) 東川 玖令亜
アベンジャーズ (若 狭)	県議会 議 員	1 福井しあわせ元気国体について 2 原子力発電所について	HINO (武 生 東) 光川 哲平
わびさび (藤 島)	県議会 議 員	1 福井県の高校教育及び大学生支援について 2 福井県における子供の貧困について	はびらぶ (仁 愛) 杉山 美月
上田 (福井商業)	県議会 議 員	1 原子力行政について	王 山 (鯖 江) 中西 弘也
休 憩 (10分)			
羽 ing 水 ing Something (羽 水)	県議会 議 員	1 北陸新幹線について 2 原子力行政について	AOI (武 生) 堀井 駿
三色だんご (勝 山)	県議会 議 員	1 観光への取組みについて 2 自然環境や生活環境などの環境問題について 3 地域医療について	アベンジャーズ (若 狭) 松見 俊佑
HINO (武 生 東)	県議会 議 員	1 福井の女性の活躍促進および支援について	わびさび (藤 島) 岡井 悠斗
はびらぶ (仁 愛)	県議会 議 員	1 福井の伝統工芸の現状と振興策について 2 福井の観光政策について	上田 (福井商業) 二木 将行

福井県を元気にするための決議（案）

私たち、平成28年度ふくい高校生県議会議員は、これからの福井県を元気にしていくために、今後、次のことに取り組みます。

1 まちづくりへの積極的な参加について

- ・住みよいまちづくりを推進していくため、まちおこし事業、地域の清掃などのボランティア活動に積極的に参加していきます。
- ・お年寄りと子供たちが元気なふるさと福井を目指すために、お年寄りと子供たちをつなぐ場、例えば祭りやイベントなどを企画・実施して、交流を促進していきます。

2 ふるさとへの貢献と情報発信について

- ・私たちが育ててくれた福井県に恩返しをし、ふるさと福井をより良くしていくため、福井県に帰って就職するなど、次の世代の担い手として社会に精一杯貢献します。
- ・県内の若者の定着と県外からのU・Iターンを促進するため、「幸福度日本一」をPRの要とし、福井県の良さを情報発信していきます。
- ・私たちが県外に進学や就職した場合には、交流人口を増やし、ふるさと福井を活気づけるために、福井県の魅力を他県の人に知ってもらえるようアピールしていきます。

3 政治への積極的な参加について

- ・日ごろから政治や経済問題等に関心を持ち、新聞やテレビなど様々なメディアを活用して情報を収集し、正しく理解・判断していくよう心がけます。
- ・選挙については、県内に住む限り投票に行くのはもちろん、県外にいる場合でも、不在者投票などの制度を活用し、選挙権を行使していきます。
- ・家族や友達などに選挙の大切さや必要性を伝え、選挙に誘い、選挙に関心を持つよう促していきます。
- ・県内の学生や県外の大学に進学した福井出身の学生の意見を政治に反映させるため、「福井学生会議」を開催し、県議会や市町議会に政策を提言して、さらに幸せで暮らしやすいふるさと福井にしていきます。

以上、決議します。

平成28年8月5日

平成28年度ふくい高校生県議会

◆議会運営委員会◆

各高校を一つの会派と見なし、それぞれの高校から代表者2名ずつが委員として、そのほかの高校生は委員外議員として出席し、議会運営委員会を開催しました。

議会運営委員会では、山岸委員長の進行のもと、当日の日程や本会議の運営について事務局から説明したあと、くじ引きにより一般質問の発言順序および議長役の順序を決定しました。

さらに、全チームから議員発議として議長に提出された「福井県を元気にするための決議（案）」の本会議での取り扱いについて、事務局から説明をしました。

最後に委員長から、参加高校生全員に対し、「1日限りですが、皆さんはふくい高校生県議会の議員です。なかなか体験できないことと思いますので、本日はぜひ議員役を楽しんでいただき、また、県議会議員と自由に意見を交わしていただいて、県議会を身近に感じていただけたらと思います」との話がありました。



◆リハーサル・議事堂見学◆

事務局から議場内の説明を行った後、模擬本会議のリハーサルを行いました。
リハーサルでは、議長役や質問者の登壇の仕方、質問時の留意点、決議案の採決の手順などを説明するとともに、高校生に実際にやってもらうなどして、本番に備えました。
リハーサル終了後には、議長室なども見学しました。



◆本 会 議◆

「ふくい高校生県議会」の本会議の議事録を掲載します。

平成28年8月5日（金曜日）

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 議 事 日 程

8月5日（金）
午後12時半開議

福井県議会議長挨拶

- 第1 議席の指定について
- 第2 会期決定について
- 第3 県政全般にわたる質問
- 第4 福井県を元気にするための決議案

本日の会議に付した事件

- 日程第1 議席の指定について
- 日程第2 会期決定について
- 日程第3 県政全般にわたる質問
- 日程第4 福井県を元気にするための決議案

午後12時30分 開 議

会議に出席した高校生議員（33名）

藤島高校

チーム「わびさび」

清 水 優 花
岡 井 悠 斗
佐 原 夏 帆
高 井 菜 奈 子

勝山高校

チーム「三色だんご」

千 京 明 日 香
仲 谷 樺 純
東 川 玖 令 亜

武生高校

チーム「AOI」

立 石 想
堀 井 駿
三 田 村 步

羽水高校

チーム「羽ing 水ing Something」

鈴 木 悠 太
山 本 拓 弥
橋 本 翔 太
渡 邊 尊 暢

鯖江高校

チーム「王山」

横 井 泰 良
山 口 立 真
吉 田 周 平
進 士 晃 平
中 西 弘 也

武生東高校

チーム「HINO」

光 川 哲 平
西 村 春 乃
齋 藤 美 和 子

若狭高校

チーム「アベンジャーズ」

奥	東	由	己
熊	谷	凌	一
松	見	俊	佑
樽	谷	倫	矢

仁愛女子高校

チーム「はぴらぶ」

杉	山	美	月
龍	田	惇	奈
平	田		直
福	谷	有	紗

福井商業高校

チーム「上田」

二	木	将	行
畑		佑	弥
上	田		諒

説明のために出席した県議会議員（18名）

山	本	正	雄	松	井	拓	夫
笹	岡	一	彦	佐	藤	正	雄
仲	倉	典	克	糝	谷	好	晃
畑		孝	幸	大	森	哲	男
鈴	木	宏	紀	田	中	宏	典
島	田	欽	一	細	川	か	をり
小	堀	友	廣	力	野		豊
辻		一	憲	長	田	光	広
井ノ部	航	太		清	水	智	信

○事務局長（小寺啓一君） ただいまから、ふくい高校生県議会、本会議を開催いたします。
 まず初めに、仲倉福井県議会議員長より御挨拶を申し上げます。

○福井県議会議員長（仲倉典克君） 皆さん、こんにちは。

きょうは、ふくい高校生県議会を開催をさせていただきましたところ、今、夏休みで、皆さんには部活動、あるいは補習授業等々いろいろ御予定もある中にもかかわらずに、こんなにたくさんの生徒の皆さん方に御出席、御参加をいただきまして、まことにありがとうございます。

今回、参議院議員選挙があったわけなんですけれども、選挙権が20歳から18歳に引き下げられた初めての選挙であったわけでありまして、当初、初めて選挙権を持つ世代は、必ず投票に行くということで、高い投票率を期待をしておりましたけれども、なかなかその期待に添うような投票率を得ることができなかったわけがあります。若い世代の中で、私の1票で世の中が変わらない、私の声の一つ上がったところで、



世の中が変わっていかない、そういう悲観的な声も聞くわけでありますが、決してそうではありません。一人一人のそういった声が束になればこの世の中というのは必ず変わってまいります。そういった意味で、皆さんも将来を担う若い世代として、これからしっかりと勉強をして、ぜひとももっともっと政治に声を上げていただきたいなと思っております。

きょうは、県議会においてどのようなプロセスで物事が決められ、そしてまた、そういった中で知事、また、議会の役割はどうかなど、いろんな観点から勉強をしていただいて、ぜひともこの夏休みのいい思い出にさせていただくと同時に、皆さんの将来にプラスにさせていただきたいと思っております。

きょうは初めての方々ばかりでありますから、演壇に上がると緊張もされるのかもしれませんが、どうか自信を持って堂々と発言をいただきたいと思っております。

皆さんの頑張りに大いに期待をいたしまして、一言ではありますけれども開会の言葉にかえさせていただきます。

頑張ってください。



○事務局長（小寺啓一君） それでは、最初の議長を羽水高校チームの「羽ing 水ing Something」の鈴木議員に務めていただきますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、鈴木議長、議長席にお着きください。

○議長（鈴木悠太君） 羽水高校、チーム「羽ing 水ing Something」の鈴木です。よろしくお願いをいたします。



○議長（鈴木悠太君） 平成28年度ふくい高校生県議会は、ここに成立いたしましたので、これより開会し、直ちに本日の会議を開きます。



○議長（鈴木悠太君） 本日の議事日程は、お手元に配付いたしましたとおりと定め、直ちに議事に入ります。



第1 議席の指定について

○議長（鈴木悠太君） まず、日程第1 議席の指定を行います。

議席は、ただいま御着席のとおり指定いたしますので、御了承願います。



第2 会期決定について

○議長（鈴木悠太君） 次に、日程第2 会期決定についてを議題といたします。

ふくい高校生県議会の会期を本日1日と定めたいと存じますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（鈴木悠太君） 御異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。



第3 県政全般にわたる質問

○議長（鈴木悠太君） 次に、日程第3を議題といたします。

これより県政全般にわたる質問に入ります。よって、発言は、お手元に配付いたしました発言順序のとおりに願います。

チーム「王山」、横井君、山口君、吉田君、進士君、中西君。

〔中西弘也君登壇〕

○議員（中西弘也君） 鯖江高校、チーム「王山」の中西です。

福井県の人口減少対策についてお聞きします。

県内の出生率は、他の県に比べて高い傾向にあります。

しかし、「福井県の人口推計」によると、県内の総人口は増加するどころか減少が続いており、昨年は約5,000人減少しています。本県の人口減少の要因としては、自然減に加え、社会減もあり、昨年度は1万3,883人が県外へ転出しており、特に20代から40代前半の方が多いようです。それに対して、本県へ転入してくる人数は1万2,110人と約1,700人減少しています。結婚・出産・子育て支援など自然減対策も重要ですが、社会減対策、県外へ転出していく人たちをいかに引き留めるのかも非常に大切ではないかと考えます。



そこで、私は、若者の県外への転出を防ぐための一つの方策として、商業施設などで大手メーカーや有名ブランドと連携し、ショップの情報をリアルタイムで検索し、商品を手取りできるようなシステムを導入することなども、福井県にいながらにして、若者が流行に敏感に反応することができ、効果があるのではないかと考えています。

そこでまず、福井県が昨年度策定した「ふくい創生・人口減少対策戦略」に基づく自然減対策や社会減対策の各種施策が現段階でどのような成果を上げているのかについて、お聞かせください。

〔吉田周平君登壇〕

○議員（吉田周平君） 吉田です。

続けて、社会減対策について伺います。

先ほども申し上げたように、県の人口は、社会減だけで毎年1,500人を超える減少を続けています。

県はU・Iターンを徹底してサポートしていく方針であり、戦略では県外の有効求人倍率が低い地域などにおいて、県内企業の職業紹介を強化するなど、県外からの人材の誘致を促進することとしています。

私は、若者の人口増加対策として、出産祝金や定住奨励金、住宅補助金などを支給するといった施策により、県外にいる人たちへ福井のよさをPRすることがより効果的ではないかと考えます。

県は、社会減対策として具体的にどのようなことを実施しているのか伺うとともに、そのPRがどのような効果をもたらし、今後、どのような対策が必要と考えるか、考えをお聞かせください。

〔進士晃平君登壇〕

○議員（進士晃平君） 進士です。

次に、北陸新幹線についてお伺いします。

昨年3月14日に北陸新幹線が金沢まで開業し、近い将来、福井県内まで延伸する予定となっております。

北陸新幹線の開業効果により、金沢市では、兼六園の入場者が前年に比べて約4割もふえ、また、江戸時代の民家を復元したひがし茶屋休憩館の来館者数も13万人と9割近く増加するなど、石川県を訪れる観光客が急増しました。また、JR金沢駅周辺では、新幹線開業に合わせた大型商業施設のリニューアルが相次ぎ、富山県小矢部市には北陸初の本格的なアウトレットモールもオープンしました。日本政策投資銀行北陸支店によると、新幹線開業による石川県の年間の経済効果は124億円にも上るとのことです。

こうした結果を見ると、よりよい観光資源が福井にあれば、多くの人が集まってくるのではないかと考えますが、私は、福井にはこれといった観光地が少ないような気がします。

高齢化が進んでいる今、観光客を呼び込む一つの方策として、山菜採りやトレッキング、グルメツアーといった高齢者向けの観光地、観光施設を充実させることも、福井の魅力アップにつながると思いますが、今後、どのようにして福井をPRしていくべきか、お考えをお聞かせください。

〔山口立真君登壇〕

○議員（山口立真君） 山口です。

最後に、北陸新幹線が福井県内まで延伸された場合の影響について伺います。

福井県には、芦原温泉、福井、南越、敦賀の4駅が建設される予定となっております。

私たち、丹南地域に住んでいる者にとっては、北陸新幹線が開通することによって、かえって不便になってしまうのではないかと不安に感じています。

例えば、並行在来線がJRから経営分離され、地元自治体などが出資する第三セクターが運営することとなると、他県の事例を見ると、今までよりも運賃が値上がりするのではないかと懸念しています。

また、北陸新幹線が開通すると、在来線の特急列車がなくなり、関東や関西への移動も、今より時間がかかることになってしまわないかと心配しています。

そこで、私は越前武生駅を終点とする福井鉄道を南越駅まで延伸させるなど、乗り換え利便性を向上させることが、丹南地域の住民や福井を訪れる観光客の移動に効果的であると考えますが、御意見をお聞かせください。

ありがとうございました。

以上で、鯖江高校の質問を終わります。

○議長（鈴木悠太君） 県議会議員、辻君。

〔辻 一憲君登壇〕

○県議会議員（辻 一憲君） 中西弘也議員の自然減対策や社会減対策の成果についての質問にお答えをいたします。

昨年、県が策定した「ふくい創生・人口減少対策戦略」の着実な実行に向け、県議会で承認された129事業、総額約66億円の予算により、現在、市町や経済界、大学などと力を合わせ、具体的な政策に着手しています。

自然減対策は、県民の結婚、出産の希望に応え、人口がふえる施策を進めています。現在、目標達成した項目は、女性活躍推進企業の登録数は103社、育児をしやすくするための短時間勤務制

度を就業規則等で明文化している企業が労働者100人未満の企業で58%などです。

社会減対策は、U・Iターン者が県内に定着するための施策を実施しております。福井で暮ら



した場合と東京で暮らした場合の収支差を比較した「ふくい暮らしライフデザイン設計書」を作成し、県内全ての高校生、そして、県外の大学生に配付をいたしました。また、県内企業の魅力をPRする剛力彩芽さん主演のドラマ「夢叶う、福井県」を2月に公開、現時点で15万回再生されております。目標を達成した項目としては、U・Iターン者数が460人、本社機能の誘致1社などがあります。

中西議員が提案された、ブランドなどの商品が福井にいながらにして入手できる環境づくりは、若者の定着の策として大変重要であり、今後の議論の参考とさせていただきます。

次に、吉田周平議員の今後どのような社会減対策が必要と考えるかについてお答えをいたします。

若者の県内定着を促進するために、県は4月にアオッサに大学連携センターを開所、恐竜学や方言など福井の魅力を学び、県内企業を知る共通講義を開催したところ、530人が受講し、交流を深めております。

今後は、ジョブカフェなどと協力し、県内企業の特徴を使える機会をふやし、学生の地元定着に向け、大学等の活動への支援をさらに強めていきます。

また、県外の大学に進学した学生や県外の若者の福井へのU・Iターンを促進するよう、東京、大阪、名古屋、福井で開設いたしました福井Uターンセンターでの相談、マッチングの充実に取り組んでまいります。

吉田議員が提案された各種支援金の充実も県の関係者と十分に協議し、今後とも人口減少対策が実を結ぶよう、各種事業に積極的に取り組んでまいります。

○議長（鈴木悠太君） 県議会議員、鈴木君。

〔鈴木宏紀君登壇〕

○県議会議員（鈴木宏紀君） 私からは、北陸新幹線について2点お答えをいたします。

まず、高齢化が進む中、今後、福井をどうやってPRしていくべきかという質問に対してお答えをいたします。

旅行業界の情報によれば、高齢者の皆さんが観光旅行に求める主なニーズとして、時間にゆとりを持って1つの場所、魅力をじっくり味わいたい、あるいは日常生活では味わうことができない体験がしたいなどが上げられます。

このような高齢者のニーズを満たすため、現在、福井県では、福井県観光新戦略において、例えば恐竜博物館を小さなお子さんだけでなく女性の皆さん、そして高齢者の皆さんまで、誰もが楽しむことができる世界一の博物館にすることを目指しております。

また、一乗谷朝倉氏遺跡や永平寺の門前などの観光地をさらに磨き上げ、じっくり楽しんでいただける見どころをふやす取り組みを、現在、行っているところでございます。

進士議員御提案の、山菜採りやトレッキングなどは、都会の高齢者向けの体験型観光としてのニーズにしっかりとマッチしておりますので、今後は、福井らしい、福井県にしかない歴史、文化、自然、食、暮らしなどを生かした新しいツーリズムの推進を議論する際の参考にさせていただ

できます。

次に、北陸新幹線が福井県内まで延伸された場合、福井鉄道を南越駅まで延伸させるなど、乗りかえの利便性を向上させることが、地域住民や観光客の移動に効果的であると考えているが、所見はどうかとの質問であります。

福井鉄道の南越駅までの延伸については、あくまでも私の個人的な考えでありますけれども、費用対効果などの観点から極めて困難であるように思います。

しかしながら、山口議員が御指摘されましたように、新たに整備される新幹線の駅から、その次の場所に向かうまでの二次交通をしっかりと整備することは、大変重要な課題であります。そのため、昨年12月に越前市が南越駅周辺整備計画を策定し、南越駅と武生駅あるいは南越駅と周辺市町のアクセスにつきまして、バスの利用を主流とした検討が、現在、なされております。今後は、南越駅の周辺市町がしっかりと連して、地域住民や観光客のニーズに合ったバス路線を体系的に整備することが重要であると思っております。



また、二次交通として、自動車分担率の極めて高い丹南地域におきましては、利便性の高い交通手段として、レンタカーやカーシェアリングなどの充実を図る必要もあると思っております。

いずれにいたしましても、新幹線の開通によって、地域住民の通勤、通学、県外に出かける際の利便性が決して損なわれることのないよう、また、観光客が福井県に訪れた際、新幹線の駅からの二次交通につきましても、しっかりと利便性を確保するよう、今後も理事者と十分に協議を重ねてまいります。

○議長（鈴木悠太君） ここで、勝山高校、チーム「三色だんご」の東川君に議長を交代します。ありがとうございました。



○議長（東川玖令亜君） 勝山高校、チーム「三色だんご」の東川です。よろしくお願いします。

チーム「A O I」、立石君、堀井君、三田村君。

〔三田村 歩君登壇〕

○議員（三田村 歩君） 武生高校、チーム「A O I」の三田村です。

まず、福井の大学の現状について質問するので、よろしくお願いします。

現在、福井が抱える問題として、高校生の多くが卒業後県外に進出してしまうため、県外に出た若者の福井での就職率が低いという問題があります。実際、僕たちの学年でも県内の大学を目指す生徒の割合はそれほど高くはありません。これからの福井の学生が、県内の大学に進学する割合が高まるという見込みはあるのでしょうか。

現在、福井には福井大学、福井県立大学など5つの大学と、2つの短期大学があります。若者が福井の職場に就職するためには、福井の大学への進学率を上げることが一番重要なことだと思います。その解決策として、例えば福井県立大学の規模を大きくすることが考えられます。

現在の県内の大学にはない文学部や法学部、理学部などを増設し、福井県立大学を総合大学にすることで、学生の県外流出を防ぐことができるのではないのでしょうか。

現在、県がこの問題に対してどのように対策をしているのか、今後どのような対策をしていくのかということを伺います。

〔堀井 駿君登壇〕

○議員（堀井 駿君） 堀井です。

僕たちは、総合大学をつくり、県外への流出を防ぐとともに、県外から人を集めることも福井を活性化させる上で重要だと考えています。

福井の長所の一つとして、「県民の幸福度ランキング」で福井が堂々の1位を獲得しているということがあります。しかし、この福井が全国に誇れる情報はあまり全国に広がっておらず、そのためか県外から福井に移り住む人々は少ないのが現状です。むしろ福井のことをよく知っているはずの福井の若者が県外に流出し続ける一方です。

このことに関して、僕たちは福井が幸福度1位ということを県内及び県外の人々に知ってもらえるように、幸福度1位の理由となっていることが一目でわかるような統計データや、福井の住民に対するサービスの内容などの情報を提供すべきだと考えています。

この点に関して、県ではどのようにして福井が幸福度1位ということをアピールしているのか、そしてどのようにして県外からの移住者をふやそうとしているのか、その方法とその成果について伺います。

ありがとうございました。

以上で、武生高校の質問を終わります。

○議長（東川玖令亜君） 県議会議員、山本正雄君。

〔山本正雄君登壇〕

○県議会議員（山本正雄君） ただいま、三田村議員のほうから、福井県の人口減少対策の中で、特に県内の大学にない文学部や法学部、理学部などを増設し、福井県立大学を総合大学にすることで、学生の県外流出を防ぐことができるのではないかと質問に対してお答えをいたします。

私も、中学校の教員を長い間しておりまして、全く今の提案に、基本的には大賛成でございます。

主に3つの答えをしたいと思います。

まず、そのための施策として、県内の学生たちが仲よくして県内のことをよく知っていただくために、福井県では大学連携センターをアオッサにつくりまして、大学生が福井の環境や、歴史などの共通科目を勉強して仲よくなっただくと同時に、また交流も深めていただく、あるいは将来の就職につなげていただく、そんなことが1つあります。

もう1つは、6月25、26日に、芝政をお借りしまして、福井県の大学生が自主的に実行委員会



をつかって、大学の合同大学祭をやりました。これで交流も深め、企業も参加していただきまして、福井県内の企業を理解していただくこともやっております、前進させているわけでございます。

3つ目は、県立大学は平成29年度から県内の推薦枠を今まで80名だったのを101名にして、21名ふやすことを決定しております。また、福井工業大学が平成27年4月から1学部8学科を3学部8学科として再編するとともに、福井大学は今年4月1日に国際地域学部を開設しております。このように、それぞれの大学にお願いをして、学部の定員をふやすとかあるいは新しい学部をつくっていただくとかを検討し、それに応えていただいているところでございます。

なお、最後の大きな課題でございますが、県立大学の総合大学化につきましては、これは全国や地域のニーズ、高校生の進学動向なども細かく調査をして、学部設置の費用対効果についても検討が必要と考えています。

ここ数年、定員を1割程度超過して入学者をふやして採っておりますけれども、一方でまた大学によっては定員を割っている県内大学もございます。こうした課題もあるために、やはりその大学の学生確保が中心になりますので、それらをしっかりと押さえた上で、今後詳細に検討を重ねて、また、理事者にもそのことを検討していただくようお願いをしているところでございます。

御案内のとおり、ことしの県外大学への進学者は2,600人、そして県内大学には1,500人と、大体、6対4の割合で、今朝の新聞にも出ていたと思います。そういったことを考えますと、その県内の大学の進学率をさらに高めていく必要があると思っています。

続きまして、堀井議員の質問にお答えをいたします。

福井県の人口減少対策について、どのようにして福井が幸福度1位ということをアピールしているのか、また、どのようにして県外からの移住者をふやそうとしているのか、そのことについてお答えをいたしたいと思います。

まず、東京とか大阪などの都市圏において、県が移住セミナーを開催し、また移住希望者のサポートを福井県内の市町の支援員と協力して行っております、平成26年度は一般社会人に361人移住していただきましたし、平成27年度は460人に増加をしております。これから以降も、県内へUターンや移住していただけるように、サービスを徹底していきたいと思っています。

また、人口減少に歯どめをかけるために、先ほどの答弁にもございましたけれども、昨年4月に総合政策部内にふるさと県民局を設置しまして、国に方針を出し、そして県内で地方が元気に活発になって、将来若者がとどまるような施策をしっかりとやっていきたいと思っています。

私が提案して、昨年度県で作成したふくい暮らしライフデザイン設計書を皆さんに配付してありますので、ちょっとごらんください。

都会の大学へ行って、生涯60歳まで生活するのと、福井で県内の大学に進んで生涯60歳まで生活するのと、経済的にどれくらい違うのかが一目でわかると思います。約3,000万円の違いが出て、福井にいたほうが家1軒分お得ですよというのを、県内の高校生の皆さんや、保護者の皆さんに、進路を検討していただく資料の一つとして配布したわけでございますので、これからそういったことも参考にさせていただいて、進路を決定していただくとありがたいと思います。

幸福度ランキングについては、県としても、昨年度以来パンフレット、インターネット等々で積極的に利用しておりますので、どうぞまた見ていただいて、御意見をいただきたいと思っています。

以上です。

○議長（東川玖令亜君） ここで、武生東高校、チーム「H I N O」の光川君に議長を交代します。

ありがとうございました。

- 議長（光川哲平君） 武生東高校、チーム「HINO」の光川です。よろしくお願いします。
チーム「アベンジャーズ」、奥東君、熊谷君、松見君、樽谷君。



〔松見俊佑君登壇〕

- 議員（松見俊佑君） 若狭高校、チーム「アベンジャーズ」の松見です。

まず、福井しあわせ元気国体についてお伺いします。

県は昨年の和歌山国体で、一昨年の長崎国体での17位という結果を大きく下回る26位という結果でした。

ことし行われる岩手国体で目標である10位台に

のるためや、2018年の福井国体に向けて、より高校生や若い世代などの育成に力を入れる必要があると思いますが、練習環境の充実性や選手の育成状況について、具体的にどのような対策に取り組んでいるのか、また、これからの方針についてお聞かせください。

〔樽谷倫矢君登壇〕

- 議員（樽谷倫矢君） 樽谷です。

先ほど、練習環境の充実などを述べましたが、国体の競技会場の施設の充実も重要になってきます。

県内全域でほぼ全ての競技が行われますが、一部の競技は石川県や静岡県で行われる予定であり、全ての競技を県内で行うことができないのは、施設の整備状況等が関係していると聞きます。

福井県営陸上競技場は国体に向けてことしの春に改装工事が終わり、ほかの競技会場でも準備が進んでいるようですが、選手にとって最高のパフォーマンスができるよう、施設の充実が図られているのでしょうか。

また、現在の整備状況についてお聞かせください。

〔奥東由己君登壇〕

- 議員（奥東由己君） 奥東です。

次に、原子力発電所についてお伺いします。

NHKの世論調査によると「原子力発電事故が起きるかもしれないということに不安を感じていますか」という質問に、回答者2,549名の中で31.7%の方が「大いに感じている」と回答しています。また、先日、高浜原発3・4号機の運転を差しとめる大津地裁の仮処分決定について、関西電力が取り消しを求めて申し立てた異議が退けられました。

この二つのことから、世論では、原子力発電所に対する不安を感じる人が多く、司法は「原子力発電は安全ではないもの」と捉えているものだと考えます。このような悪いイメージを抱えている原子力発電所を多く保有することで、例えば、福井へのUターンも少なくなるのではないかと考えます。

福井の政治を動かしている議員の皆さんは、このような原発に対してどのようなイメージを持っているのでしょうか、お聞かせください。

〔熊谷凌一君登壇〕

- 議員（熊谷凌一君） 熊谷です。

さきの参議院選挙で自民党の公約において、エネルギー政策について、「エネルギー基本計画を踏まえて、徹底した省エネ、再生可能エネルギーの最大限の導入、火力発電の高効率化により原発依存を低減させる」という記載がありました。このように与党が原発依存を低下させようとしている中で、福井県は昨年、高浜原発3・4号機の再稼働に同意したように、安全と確認された原子力発電所をこれからも稼働させていくようにも見えます。



そこで御質問です。

原子力発電所について、県では、安全と確認された原子力発電所の再稼働を推進していきますか。

推進するとすると、現在世論一般では原発に対して不安を感じている人が多い中、福井県全体のイメージ低下は避けられないと思いますが、それについてはどのように対処されますか。

また、推進しないとすると、原子力発電にかわるような新エネルギーの開発拠点になるような施策を打つべきだと考えますか。

今後のエネルギー政策の見通しについて、お答えください。

ありがとうございました。

以上で、若狭高校の質問を終わります。

○議長（光川哲平君） 県議会議員、長田君。

〔長田光広君登壇〕

○議員（長田光広君） 若狭高校「アベンジャーズ」、松見議員の御質問にお答えします。

まず平成30年、2018年に本県で開催される、福井しあわせ元気国体についての天皇杯獲得に向けての取り組み、練習環境の充実、選手の育成の具体的対策についてお答えをいたします。

平成32年には皆さん御存じのように東京オリンピックの開催も控え、スポーツに関する関心が全国的に高まる環境の中で、本県で開催される国体であり、全国に福井ありきを発信する意味でも非常に頑張らねばならない大事なポイントであると、そのように理解をしております。

御指摘されたように、おとしの長崎国体では17位、昨年の和歌山国体では26位、この結果を



踏まえ、本年開催の岩手国体では10位台を狙い、本県では、西川知事もおっしゃってらっしゃいます天皇杯の獲得に向け、関係諸団体、行政などが一丸となり努力しているさなかであります。

競技数も多く、全てについて具体的にここで申し上げるには時間の都合等々もありますので、一例をお示しさせていただきますが、少年選手については、福井国体で390名の選手の出場を計画していますが、3年前からジュニアアスリートの育成を

開始し、県外中学校を卒業した有力選手の県内強化指定高校へのスカウトを促進しているさなかであります。ウエイトリフティング、ラグビーなどを初め、高校から部活動が始まる14の競技については、昨年度から体験会などを開催し、有望な新入部員の確保に務めております。本年4月には、青年選手も含めた県の組織体制を強化する一方、全ての競技団体の課題と対策を明確化し、

それを実行しているさなかです。

本年度から福井国体の少年種別で、中心となる高校1年生を中心に、選抜チームも編成し、県外強豪校相手の強化合宿、オリンピック出場選手による直接の指導、メンタルトレーニングの導入などを開始し、本年の岩手国体ではなんと10位台の前半を狙っているところであり、本番の福井国体では総合優勝を目指し、競技団体と一丸となり、競技力の向上を図っているところであると、お答えをさせていただきます。

次に、樽谷議員の福井しあわせ元気国体が開催される施設の充実と現在の整備状況についての御質問にお答えをいたします。

早期整備により、国体競技会場での十分な練習機会の確保により、本県出場選手の練習環境を整えることが何より大事と考えます。それにおいて、今どんどんと早目、早目の環境整備を整えております。

一例ではありますけども、ことし4月に福井運動公園陸上競技場及び野球場、5月には勝山市体育館が完成し、利用開始をしているところであります。陸上競技場においてはトラック舗装の全面改修、夜間照明などの設置、そして野球場ではスコアボードの全面LED化、勝山体育館においてはバドミントンコート12面の確保などなど、着実に進めているところであります。

今後の整備計画につきましては、今年度中、県営体育館や県営テニスコート、小浜市総合運動場内の多目的グラウンドが完成予定でありますし、来年度のプレ大会、平成30年度の本大会に向けた準備をさらに進める予定であります。

いずれにしましても、天皇杯の獲得、順位ももちろん大事であります。福井しあわせ元気国体と全国障害者スポーツ大会の開催を通じまして福井がよりよい県になれるよう、皆さんとともに頑張ることが一番大事かと思っております。ぜひですね、機運醸成、そして大会運営等々に至るまで、皆さんの御協力をお願いさせていただきたい、そのように思う次第であります。

以上であります。よろしくお願ひいたします。

○議長（光川哲平君） 県議会議員、小堀君。

〔小堀友廣君登壇〕

○県議会議員（小堀友廣君） 若狭高校「アベンジャーズ」、奥東議員から質問いただいた原子力発電所に対するイメージについて、また、熊谷議員から質問いただいた原子力発電所の再稼働について、今後のエネルギー政策の見通しについて、若狭高校出身の私から、一括して答弁いたします。

福井県議会は昨年12月17日、関西電力高浜発電所3・4号機の再稼働に関する決議を行いました。国や事業者に対し、エネルギー基本計画の原子力発電の重要性、必要性、核燃料サイクルの意義を国民に理解が得られるようにすること、原子力発電所の安全性向上に努力すること、原子力災害時に向けて国と関係自治体との連携を強化すること、使用済み燃料の再処理、貯蔵、最終処分を進めることの4点を条件に再稼働を認める決議をいたしました。

安全神話のもと築き上げてきた、国や事業者と自治体、住民との信頼関係は、3・11の事故により覆され、原子力に対する不安や反原子力、脱原子力の空気が国民世論に広がっているものです。



我々は今、何をすべきか。ふるさとに生まれ、ふるさとに住む我々が、まず第一に考えなければいけないのは、ふるさとを守ることです。

日進月歩の科学技術は、放射能の半減期を縮める研究も進んでいます。10万年とも言われる半減期が300年になるとの研究もあります。人類が原子力を使い始めたときから、原子力を安全に制御するのが、人類の責任であると思います。

今まで40年以上にわたって、国民全てが原子力によって受けてきた恩恵は、はかり知れません。

しかし、今、不安だからといって原子力の研究開発を放り出されたらどうなるのか。再生可能エネルギーや新エネルギーに目を移しても、安全性が確保できるわけではありません。

実際、廃炉が決定した原子炉も、全て解体して高放射能の撤去処分をするのに30年以上かかるとされています。

安全神話が崩壊した今、安全は我々がつくっていくものです。奥東議員、熊谷議員の意見をもとに、議会では理事者とともに、国や事業者に対し、安全を第一に、また国民に十分な理解を得られるよう努力することを今後も求めていきます。

最後に、若狭高校校長室には、若狭高校の前身である小浜中学の卒業生、佐久間勉艇長の「小浜中学生諸君」で始まる檄文が残されています。その中で、国を守る心を伝えています。また、潜水艦の中で死に至るまで書き続けた遺書には、沈没の原因を書き、「願わくは諸君益々勉励もつて、この誤解なく、将来潜水艇の発展研究に全力を尽くされんことを」と書かれています。

佐久間艇長の後輩である議員が国を守り、ふるさとを守る人となることを希望して、私の答弁といたします。

○議長（光川哲平君） ここで、仁愛女子高校、チーム「はびらぶ」の杉山君に議長を交代します。ありがとうございました。



ついて質問します。

県は平成27年に西川知事を中心に、教育に関する大綱を策定し、福井県教育の基本的な方針を定めました。

その中の方針2、夢や希望を実現する「突破力」を身につける教育の推進において、高校では新たな学科の設置の検討という普通科とは違った形で大学進学を目標とする学科設置の構想があります。

ここ最近、東大や京大を初めとする、難関国立大学への進学率が低下している中、現在の構想内容とそれを実現する具体的カリキュラム及び対応可能な教員の数について、考えをお伺いしたいと思います。

〔清水優花君登壇〕

○議長（杉山美月君） 仁愛女子高校、チーム「はびらぶ」の杉山です。よろしくお願ひします。

チーム「わびさび」、清水君、岡井君、佐原君、高井君。

〔岡井悠斗君登壇〕

○議員（岡井悠斗君） 藤島高校、チーム「わびさび」の岡井です。

まず福井県の高校教育及び大学生支援に

○議員（清水優花君） 清水です。

次に、高校教育後の大学生支援についてです。

大学受験突破支援だけでなく、県内出身大学生への支援も大切だと思います。

県教育委員会によると、平成27年度の県内高校生の大学、短大進学率は55.3%であり、またそのうちの約6割が県外の大学、短大に進学するなど、福井県は県外志向の強い県であります。

しかし4年間の国公立大学の授業料だけでも、約200万円もの負担が強いられ、その他、入学金や教材費、さらには下宿代などさまざまな経費がかさみ、これらが家計を圧迫している家庭は少なくないでしょう。

県は、返済義務のある貸与型奨学金だけでなく「U・Iターン奨学金返済支援」や「ものづくり人材育成修学金」など、卒業後に県内一部業種への就職と県内定住を条件に、奨学金返済を支援する制度や県内ものづくり企業に一定期間勤務した場合に、全額返還免除される制度によって支援しておりますが、職種が限られているために、多くの大学生がそれら2つの制度を利用できるわけではありません。

また、貸与型奨学金は、返済という圧迫感や奨学金返済がおっくうだという理由で、就職意欲が減退してしまうケースがあります。

したがって、高校教育を充実させるだけでなく、その後の大学生活も見据えた支援が必要ではないでしょうか。

例えば、現在、一部業種に限って支援しているものを、業種の制限をなくすことや、難関大学など優秀な学生であり、かつ、地元就職を考えている学生に対して、給付型奨学金の支援を行うなど、県外大学生への給付型奨学金についての考えをお伺いしたいと思います。

〔高井菜奈子君登壇〕

○議員（高井菜奈子君） 高井です。

私は福井県における、子供の貧困についてお伺いします。

新聞報道によりますと、現在、生活保護費以下の収入で暮らす子育て世代の世帯割合は、全国で13.8%となっており、福井県でも5.5%と全国で最も低いものの、それでもなお、20人に1人の子供が日々の生活が大変苦しいものとなっています。

これには早急に何らかの支援が必要です。

福井県では、特に貧困率の高いひとり親家庭への支援として、職業訓練資金の貸し付け、ひとり親家庭児童への学習支援事業などが行われています。

しかし、その支援の中に食事や住まいなどの、生活の基本となる支援は全くありません。

特に食事は、子供たちが友達と遊び、学び、そして自分の将来に希望を持つ、そういった日々の活力を生み出す上でとても大切だと言えます。

県内では、現在、敦賀市とあわら市の二カ所に「こども食堂」が設立されています。

そこでは、家庭の事情により十分な食事を取れない子供達のために、ボランティアと行政が無料または低料金で、食事を提供しています。

また、民間でもこのような動きが広まりつつあり、県内のオーナーシェフ有志が「ふくい子ども食堂」を設立し、ひとり親家庭の子供達に格安で食事を提供しています。



しかし、県内でのこのような取り組みは全国的に比べ、まだまだ少ないように思います。
そこでお伺いします。
貧困家庭への食事の面での支援は何が行われていますか。
またはどんな支援をして行くべきとお考えですか。
県の考えをお伺いいたします。

〔佐原夏帆君登壇〕

○議員（佐原夏帆君） 佐原です。

私は福井県のよさのPR方法についてを質問します。

平成28年390回定例会の一般質問で、西川知事は、「福井県は待機児童数がゼロであり、貧困率の低さは全国1位であり、子育て支援も充実している。そのことを都市圏などで開くセミナーや、移住ガイドブック等により県外に積極的にさらに発信をし、本県への移住の関心を高めていきたい」とおっしゃっていました。

そこで、都市圏からの移住による人口増加に期待するだけでなく、県外へ移住する人々を減らすということも期待できると思います。

都市圏から移住して福井県に来る人々は、貧困率の低さや幸福度の高さ、すなわち暮らしやすさ、住みやすさを求めていると思われます。

こうした福井県のよさを県内の人々にもっとPRして、県外に行くよりも県内にいたいと思わせることが重要だと思います。



どのようにPRしていこうとお考えですか、お伺いします。

以上で私たちの質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（杉山美月君） 県議会議員、糀谷君。

〔糀谷好晃君登壇〕

○県議会議員（糀谷好晃君） チーム「わびさび」

の、まず岡井議員の質問にお答えをいたします。

議員御指摘のとおり、県は昨年策定した教育

大綱に基づき、教育振興基本計画を策定しております。

そのうちの1つに、高い進学目標を持つ生徒の進路実現や、地域への定着を支援することを目的に、福井地区の高校に、探求型の学習を中心とした新たな学科の設置、そしてまた二州地区の普通科系高校にサイエンス国際科の開設を検討しているところであります。

これらは変化の激しい社会において、知識を活用し、課題を解決する力を身につけることを重視しており、モデル校を指定して、先進的な課題解決型の学習を進めていくこととしています。

なお新たな学科のカリキュラム、教員の数などは、今後県の教育委員会で検討が進められると思います。

いずれにいたしましても、京大や東大などの難関大学への進学も、もちろん大事ではあります。

しかしこれからの人口減少社会を踏まえて、私ども県議会でも大いに論議した大綱の基本方針ではありますが、それに真っ先に掲げられたのが、ふるさと福井に誇りと愛着を持ち、将来の福井を考える人を育てることが重要だという認識を、お互いに共有できればと思っています。

次に、同じく清水議員の御質問にお答えします。

奨学金については、これまでほとんどが貸与型であり、いわゆる返済義務が課せられているこ

とは、御指摘のとおりであります。

これら貸与型奨学金を利用した大学生が、卒業後その返済に苦しむ例が多いことは古くて新しい問題であり、とりわけ最近では、報道等でもよく取り上げられており、過日の参議院選挙においても、この論議が一つの焦点になったと思っています。

しかし、こうした給付型の奨学金については、その財源をどうするか、あるいは対象者をどのように選定するかなど、課題が多いことも事実であります。

そこで、質問にもありましたが、県としても、返済支援や、就学資金の貸与制度を実施しているところであり、これらは、不足している職種の福井への、U・Iターン促進や、県内のものづくり人材の育成に結びつけるために、実施するものであります。

いずれにいたしましても、人口減少対策、あるいは福井県の将来を担う人材を育成するという観点から、今後こうした給付型の奨学金についても、国の検討状況をよく踏まえながら、県としても検討していくことが必要であり、私どもも、お金がないから、高等教育の機会が失われるといった不幸なことにならないように、政治に求められている使命だとしっかりと認識しています。

以上です。

○議長（杉山美月君） 県議会議員、井ノ部君。

〔井ノ部航太君登壇〕

○県議会議員（井ノ部航太君） 藤島高校、チーム「わびさび」の高井菜奈子議員の質問にお答えします。

議員御指摘のとおり、子供の貧困は、未来を託すべき子供達の生活環境が厳しさを増しているという、大きな社会問題になっています。

福井県としては、子ども食堂などの食事面のみに対する支援は行っていません。

しかし御指摘のとおり、それでは不十分だという声があります。

特に、貧困の御家庭では、欠食を始めとして、インスタント食品や炭水化物の摂取が多いとされ、栄養バランスが崩れている子供が多いことが指摘されています。

子供の健やかな健康を地域社会全体の問題として捉え、行政が積極的にこの問題に関与すべきと考えていますので、今後理事者側と十分協議をしていきます。

さて、貧困問題の解決のためには、貧困の連鎖を断ち切らなくてはなりません。

貧困の要因はさまざまありますが、貧困によって教育を受ける機会が奪われてしまうことも、そのうちの一つに挙げられます。

学力の向上は人口減少社会において、福井県の産業力維持に欠かせないだけでなく、子供達の未来の選択肢を広げるという点においても重要です。

福井県では、ひとり親家庭の小中学校に通う子供に対して、学習支援制度を設けていますが、今後は対象を高校生に広げるなど、家庭の経済状況に応じて、支援を拡充していくことが必要だと思います。

とにかく子供は社会の宝です。

しかし日本社会では、いまだ子育てが家庭に丸投げされて、子供の問題が家庭の問題として片づけられる風潮が強いです。これは家庭と社会で子育てを行う、先進諸国では例のないことであ



ります。今後は社会全体で子育てをサポートする制度を充実させ、さらに安心して子育てのできる、福井県を目指していきます。

次に佐原夏帆議員の質問にお答えします。

私は東京で育ち、父のふるさと、福井に帰り7年目になりますが、本当に福井はよいところだなということを体で感じています。

子供のころに、長い休みに福井に帰ると、東京では見ることのできないカブトムシやクワガタ、川に行けばアユやウナギなど、たくさんの種類の虫や魚がいくらでもいて、自分だけの宝の山を持っているような、とても誇らしい気持ちになったことを覚えています。

この幼少のころのわくわくした思い出が、福井を大好きになるきっかけとなり、福井県のために働かせていただいている原動力になっていることは間違いありません。

若い皆さんが外の世界を見てみたいと思うことは理解できます。冒険もしてみたい、広い世界で自分の力を試してみたい、そう思うことは当然です。

しかし、これからどのような人生を歩もうとも、暖かいふるさと福井は変わることなく皆さんの心の中に存在をしています。家族や地域の絆、そしてみんなでともに福井を支え合って、福井でともに支え合っていく社会の仕組みは、都会では、既に失われて久しいのではないのでしょうか。

福井県でも昨年策定した「ふくい創生・人口減少対策戦略」に基づき、福井のよさを必死にPRしています。各種セミナーや、「ふくい暮らしライフデザイン設計書」を作成したり、また福井と東京の生活の、質の違いを比較し、剛力彩芽さん主演のドラマ、小さな世界企業をユーチューブで放映し、県内企業の魅力を紹介しています。

しかし、より重要なのは、皆さんが福井に住み続けたいという気持ちになるにはどうしたらいいのか、それを声を上げて、政治や行政に関わっていくという姿勢ではないのでしょうか。

すなわち、老若男女、みんなでふるさと福井を支え、よくしていこうという気持ちを広げていくことが、最大の人口減少対策だと考えます。

これは必ずしも、マスコミやリーフレットを活用して行うものだけではなくて、ふるさとを愛する気持ちを、家庭、地域や学校で育んでいくことです。

その上で皆さん自身がSNSや口コミを通して、いきいきと福井のよさを発信してくことこそが、最大のPR施策にほかなりません。

どうか議場におられる皆さんと一緒に、これからもずっと一緒に取り組んでまいりましょう。

以上で答弁を終わります。

○議長（杉山美月君） ここで、鯖江高校のチーム「王山」の中西君に議長を交代します。

ありがとうございました。



○議長（中西弘也君） 鯖江高校、チーム「王山」の中西です。

よろしくお願いします。

チーム「上田」二木君、畑君、上田君。

〔二木将行君登壇〕

○議員（二木将行君） 福井商業高校、チーム「上田」の二木です。

まず、原子力発電所の再稼働について伺います。

関西電力高浜3・4号機は、大津地裁において再稼働禁止の仮処分決定が出され、現在停止しています。また、高浜1・2号機については、40年を超える原子力発電所として日本で初めて運転延長する動きとなっています。

世界に目を向けてみると、フランスでは現在75%の原子力発電所の依存度を2025年には50%にまで引き下げ、かわりに再生可能エネルギーへの導入の拡大を目指しています。

また、チェルノブイリ事故での影響で、ウクライナでは、今もなお半径30km以内の地域での居住が禁止されています。

日本においても、2011年3月11日に発生した東日本大震災は、私たちの想定を超える被害をもたらし、福島第一原発の事故から5年がたった今でも、ふるさとを離れて暮らしている人々が大量にいらっしゃいます。

原子力発電に対する不安を感じる方がいらっしゃる中で、原子力発電所が多数立地する福井県は、これからも原子力発電所を再稼働させていく方針なのでしょうか。

私は、早急に廃炉に向けた対策を進め、廃炉ビジネスを推進し、嶺南地域の活性化を図るべきだと考えますが、お考えをお聞かせください。

〔上田 諒君登壇〕

○議員（上田 諒君） 上田です。

次に、もんじゅについて伺います。

もんじゅは、原子炉内中継装置落下事故などのトラブルが相次ぎ、運転を停止していますが、このままもんじゅを存続させてよいのでしょうか。

アメリカやフランスなどでは、既に高速増殖炉の研究開発を中止している国もあります。

資源の乏しい我が国において、もんじゅは使用済み核燃料を再利用し、消費した以上の燃料を生み出すことができるという光の部分がある一方で、核燃料を目視できないことや、核爆発を制御しにくいこと、1日に約5,500万円という莫大な費用を要することなど影の部分もあるようですから、今後もこのもんじゅを存続させることに不安を感じています。

そこで私たちは、もんじゅから手を引き、さらに廃炉に関する政策を進めていくことを提案しますが、今後の方針についてお聞かせください。

ありがとうございました。

以上で、福井商業高校の質問を終わります。

○議長（中西弘也君） 県議会議員、力野君。

〔力野 豊君登壇〕

○県議会議員（力野 豊君） 福井商業高校、二木議員の質問にお答えいたします。

1点目の質問は、早急に廃炉を進め、廃炉ビジネスを推進し、嶺南地域の活性化を図ってはとの御質問にお答えいたします。

原子力政策については、安全性の確保を大前提とし、国が国民全体に対し、丁寧に説明し、理解と信頼を得ることが最重要だと考えます。

日本のエネルギー自給率は6%ほどで、ほとんどを海外からの輸入に頼っており、長期的な観点に立った安定供給や低炭素社会の実現など、重要な要素に鑑み、現時点では、国が作成したエネルギー基本計画において、原子力発電は重要なベースロード電源と位置づけられています。



また、長期エネルギー需給見通しにおいて、2030年の全電力量に占める原子力発電比率を20～22%としており、経済産業大臣は、国会において「40年運転の延長をしなければ、原子力発電比率の達成は困難」とも答弁しています。

こうした我が国のエネルギー事情を考えると、エネルギー供給の安定を図り、私たちの暮らしと強い経済を支えるためには、原子力の役割は引き続き重要であり、原子力規制委員会も安全審査で合格した発電所の再稼働は必要になってきます。



廃炉の問題は作業完了までには、20年から30年の期間を要するため、立地地域に一定の経済効果も期待され、振興につなげていくことが重要であります。

県は全国で初めて、廃炉措置にかかる協定を事業者と締結、電力事業者だけでなく、プラントメーカーに対しても、地元企業との協力体制をつくり、地域の廃炉ビジネスに積極的に貢献できるように強く求めていく方針でございます。

将来、必ず各発電所で廃炉はやってきます。電源比率構成の観点から、リプレイスや新增設の議論が始まることも、今後の課題になってまいります。

次に上田議員の質問にお答えいたします。

もんじゅを廃炉にしてはとの提案であります。

もんじゅについては、文部科学省が設けたもんじゅのあり方に関する検討会が、今後の組織と運営のあり方にかかる提言を5月に取りまとめるなど、国において検討しております。

一方で、核燃料サイクル政策の中核施設であるもんじゅについては、フランス政府との間で高速炉の技術開発協力に関する取りまとめが締結されるなど、国際的にも開発が期待をされております。他国が高速炉開発から撤退したわけではありませんが、現時点では中断しているとも言えます。

また、県議会においても、国へ意見書を提出し、資源が乏しい我が国において、政府が一体となった責任体制のもと、エネルギー基本計画に示されている核燃料サイクル政策の推進、並びに高速炉研究開発を確実に実行すること、また、それらを県民、国民に丁寧に説明することを求めました。

チーム「上田」のお2人からいただいた質問、御意見については、今後の議論の参考にさせていただきます。

私からの答弁といたします。

○議長（中西弘也君） ここで、休憩いたします。

13時50分に再開いたします。

なお、休憩後は、武生高校、チーム「AOI」の堀井君に議長を交代します。

午後1時41分 休憩



午後1時51分 再開

会議に出席した高校生議員（33名）

藤島高校

チーム「わびさび」

羽水高校

チーム「羽ing 水ing Something」

清 水 優 花
 岡 井 悠 斗
 佐 原 夏 帆
 高 井 菜 奈 子

勝山高校

チーム「三色だんご」

千 京 明 日 香
 仲 谷 樺 純
 東 川 玖 令 亜

武生高校

チーム「AOI」

立 石 想
 堀 井 駿
 三 田 村 步

若狭高校

チーム「アベンジャーズ」

奥 東 由 己
 熊 谷 凌 一
 松 見 俊 佑
 樽 谷 倫 矢

仁愛女子高校

チーム「はぴらぶ」

杉 山 美 月
 龍 田 惇 奈
 平 田 直
 福 谷 有 紗

鈴 木 悠 太
 山 本 拓 弥
 橋 本 翔 太
 渡 邊 尊 暢

鯖江高校

チーム「王山」

横 井 泰 良
 山 口 立 真
 吉 田 周 平
 進 士 晃 平
 中 西 弘 也

武生東高校

チーム「HINO」

光 川 哲 平
 西 村 春 乃
 齋 藤 美 和 子

福井商業高校

チーム「上田」

二 木 将 行
 畑 佑 弥
 上 田 諒

説明のために出席した県議会議員（18名）

山 本 正 雄
 笹 岡 一 彦
 仲 倉 典 克
 畑 孝 幸
 鈴 木 宏 紀
 島 田 欽 一
 小 堀 友 廣
 辻 一 憲
 井ノ部 航 太

松 井 拓 夫
 佐 藤 正 雄
 糺 谷 好 晃
 大 森 哲 男
 田 中 宏 典
 細 川 か を り
 力 野 豊
 長 田 光 広
 清 水 智 信

○議長（堀井 駿君） 武生高校、チーム「AOI」の堀井です。

よろしくお祈いします。
休憩前に引き続き会議を開きます。

チーム「羽ing 水ing Something」、鈴木君、
山本君、橋本君、渡邊君。

〔鈴木悠太君登壇〕

○議員（鈴木悠太君） 羽水高校の「羽ing 水ing
Something」の鈴木です。

まず、北陸新幹線についてお伺いします。

北陸新幹線の福井駅先行開業については、与党の整備新幹線建設推進プロジェクトチームの福井駅先行開業等検討委員会の中間取りまとめによると、用地取得の加速化、工期の短縮、福井駅折り返しのための留置線の確保、運行管理システムなどが課題とのことです。

また、新聞によると、工期短縮は技術的に難しく、新しい工法導入には時間がかかるとあります。

このことについて、工期の短縮では安全性の欠落が心配され、留置線や運行管理システムには莫大な費用がかかるとの意見もあります。また、土地取得には多大な時間を要する可能性も指摘されています。

このように安全性の欠落のおそれや莫大な費用、また、多大な時間を要する可能性があるとの指摘もある中、北陸新幹線の金沢―福井駅開業を2年前倒しする必要があるのでしょうか。考えを伺います。

〔橋本翔太君登壇〕

○議員（橋本翔太君） 橋本です。

北陸新幹線は、開業がゴールではありません。

今、福井県は観光地という点において、商店街などの活性化や観光客に対してのサービスなどが足りないと思われます。

つまり、たとえ北陸新幹線の県内開業が実現しても、現在、地域が抱えているそれらの問題への対策がおくれ、観光客を呼び込むための環境整備が整っていないければ、県外からの観光客の増加は望めず、福井県に住む人は他県へ流れてしまうおそれもあります。

福井県の活性化が進まなければ、将来、福井駅が単なる通過駅として使われる可能性も考えられます。そうならないためには、どのような対策が必要となるのでしょうか。考えを伺います。

〔渡邊尊暢君登壇〕

○議員（渡邊尊暢君） 渡邊です。



次に、原子力行政についてお伺いします。

原子炉等規制法に定められた運転期間である40年を超えた原子力発電所については、原子力規制委員会の新規制基準に基づく安全審査に加え、特別点検の結果を踏まえた延長認可の審査に合格すれば、運転を最長で20年間延長することができます。

関西電力は、全国で初めて運転期間延長の認可を受けた高浜発電所1・2号機について、審査で

課題となった電気ケーブルや原子炉建屋の大規模工事を完了させ、早くとも3年後には再稼働させる予定です。

ニュースなどでは、老朽原発に対して安全を疑問視する声も聞かれますが、高経年化した原子炉への対応方針について、考えを伺います。

また、この先福井の原子炉が廃炉になった場合、廃炉作業をどのように進めていくのでしょうか。あわせて考えを伺います。

〔山本拓弥君登壇〕

○議員（山本拓弥君） 山本です。

県内に貯蔵される使用済み燃料に課税し、使用済み燃料の県外搬出を促す新たな税制である「搬出促進割」などを加えた福井県核燃料税の条例案が、福井県議会で6月24日に可決されました。

核燃料税は、県が電力事業者に課税する税金であり、5年ごとに条例を更新します。福井県はこの税金を、県と原発立地・周辺の市町の道路、河川、湾岸・海岸といったインフラの整備や、原子力発電安全対策事業を中心に活用する予定です。

福井県安全環境部の資料には、「福井で福島のような大地震や津波が起こっても県内原発の安全が保たれる対策を早急に講じることにより、福島のような事故を決して起こさせない、という強い決意が背景にあった」と書かれておりましたが、もし福井県で大地震や津波が起きた場合、核燃料税を使用して、早急な対応が可能なのでしょうか。

また、あらかじめ原子力発電所付近に原子力防災対策のためのインフラや設備を用意しているのでしょうか。あわせて考えを伺います。

以上で、羽水高校の「羽ing 水ing Something」の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（堀井 駿君） 県議会議員、大森君。

〔大森哲男君登壇〕

○県議会議員（大森哲男君） 羽水高校、チーム「羽ing 水ing Something」、鈴木悠太議員の質問にお答えさせていただきます。

まず、北陸新幹線についてお尋ねがございました。

安全性の欠落のおそれや、莫大な費用、多大な時間を要する可能性も指摘される中、北陸新幹線の金沢―福井開業を、さらに2年前倒しする必要があるのかどうかというお尋ねに対してお答えさせていただきます。

北陸新幹線の福井先行開業については、県民総じて運動した結果、平成27年1月に、政府が金沢―敦賀間の開業時間を3年前倒しすることを決定しました。

その際に、別途与党において、新幹線の開業の効果をできるだけ早くもたらすための検討を行うことをあわせて決定しました。金沢―福井開業をさらに2年前倒しするか検討するという決定でございます。その2年の部分については、与党プロジェクトチームの検討結果を受けて、政府が結論を出すことになっております。



御指摘のとおり、いろんな問題があります。ただ、皆さんも見たとおり、金沢、富山の活性化の状況を見ますと、福井までも、できるだけ早く来てほしいというのが県民の願いであります。

御指摘のとおり、技術的にクリアできるか、また本県にとっても、いわゆるビーバイシーではありませんが、経済波及効果が費用対効果を望めるかどうか。また2年という期間が、例えば1年とか半年間なら、果たしてどうなるか、そういうことも含めて与党プロジェクトが今理事者とも、我々議員とも情報交流する中で決定するというところでございます。

できるだけ実現できればと思いますが、我々もなかなか厳しいと認識しております。

現時点では、福井までの用地買収が今70%になりました。そして福井から以西、敦賀までが今30%ということで、現時点でのことではあると聞いております。これも難しいのは、福井までが、いわゆる住宅部分や工場部分とか、事業者の部分があります。その以西は大口の農地が主なので、今、まだ家屋調査とか土地の調査を行ってる段階のところもでございます。これもできるだけ早く進むものと考えております。

また、プレキャスト工法という加工も、工法自身も危険があるということでございますけれども、今福井までこれを何とかするという点については、非常に問題があると。

本県としては、まずは平成34年末を目指して進めている、金沢一敦賀間の一刻も早い開業に向けて、用地取得や、工事促進を努めていること。またその次の段階であります、大阪まで、できるだけ早くつなげていくことが、本県の活性化、日本のためになるという認識であります。

次に、羽水高校、チーム「羽ing 水ing Something」の橋本翔太議員の質問にお答えさせていただきます。

福井県の活性化が進まなければ、将来福井駅が単なる通過駅として使用される可能性もあるが、そうならないためにどのような対策を進めているかというお尋ねでございます。

県では、北陸新幹線を初めとする高速交通の開業効果を高め、県内全域に浸透させることを目的として、アクション・プログラム等を作成しております。

福井の固有の歴史や文化、自然を生かした、住み続けたい、また来たいと思える、都市の再デザイン化、観光エリアの強化、いろんな対策を練って、先ほどいろんな議員が答えているような、もちろん企業誘致等も含めて、福井県が通過駅にならないように、一生懸命頑張っていく所存でございます。

ぜひ皆さんとともに、頑張っていきたいと思えます。

以上で答弁を終わります。

ありがとうございました。

○議長（堀井 駿君） 県議会議員、田中宏典君。

〔田中宏典君登壇〕

○県議会議員（田中宏典君） 答弁に入ります前に、原子力発電につきましては、安全と安心が大前提ではありますが、日本経済を支え、また、安定した国民生活を確保していくためには、どう



しても必要なものであるというふうに、私は認識をしておりますので、そのことを踏まえまして、答弁をさせていただきたいと思っております。

羽水高校の渡邊尊暢議員の質問にお答えいたします。

まず1点目の、高経年化した原子炉への対応についてであります。国が示しました2030年度の電源構成比率、いわゆるベストミックスの20から22%を実現していくためには、原子力規制委員会

の審査に合格いたしました40年を超える原子炉を稼働していく必要があります。

高経年化炉の運転延長につきましては、立地地域住民はもとより、県民の中にも十分な理解が得られていないことも事実であります。

県といたしましては、今後の国の対応や、事業者の安全対策を十分に確認をしながら、慎重に対応していく必要があると考えております。

また、住民の皆さんの理解を得られるように、丁寧の説明をしていくことも必要であるというふうに考えております。

2点目の廃炉作業の進め方についてであります。運転中と同様の安全確保や、放射性廃棄物の処理、廃炉中の地域振興等に対処していくため、全国で初めて原子力発電所の廃止措置等に関する協定書を締結しており、この協定書に基づいて、事業者の廃止措置が着実に実行されるよう確認していく必要があると考えております。

次に、山本拓弥議員の質問にお答えをいたします。

1点目の、もし福井県で大地震や津波が発生した場合、核燃料税を使用して早急な対応は可能かという御質問であります。核燃料税は、原子力発電所の立地地域及び周辺地域の原子力安全対策や、民生、なりわい安定対策等に活用することとなっています。御指摘のような災害発生時には、財源のことよりも優先して、人命救助など、緊急性を要する対応を迅速に行うことが重要であると考えております。

2点目の、あらかじめ原子力発電所付近に、原子力防災対策のためのインフラや設備を用意しているのかという御質問であります。県では核燃料税のほかにも、国の補助金や交付金等を活用して、さまざまな原子力防災対策を進めております。原子力災害の発生と拡大を防止し、速やかな復旧を図っていくために、原子力発電所へ通じる道路の整備や、避難の際に利用する一時避難施設の放射線防護対策等を引き続き実施していくこととあわせ、実効性のある防災計画等、迅速な対応が不可欠と考えております。

特に原子力災害時には、県境を越えた避難も想定されるため、今年27日に高浜地域で実施されます広域避難訓練の結果を十分に検証をして、実効性を確認していくことが重要と考えております。

本日いただきました御意見を参考にさせていただき、理事者との議論を深めるとともに、国や原子力事業者に対しても、しっかりと意見を述べていきたいと思っております。

これで答弁とさせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（堀井 駿君） ここで、若狭高校、チーム「アベンジャーズ」の松見君に議長を交代します。

ありがとうございました。

○議長（松見俊佑君） 若狭高校チーム「アベンジャーズ」の松見です。

よろしく申し上げます。

チーム「三色だんご」、千京君、仲谷君、東川君。

〔仲谷樺純君登壇〕



○議員（仲谷樺純君） 勝山高校の「三色だんご」の仲谷です。

まず、観光への取り組みについてお伺いします。

北陸新幹線が金沢まで開通して、福井も観光客がふえました。しかし、その観光客増加の内訳を見ると、日帰りの観光客が多いことがわかりました。

私は、その原因は福井に宿泊できる施設が少ないからだと考えています。



例えば、私の住む勝山では恐竜博物館ができてから、勝山に来る観光客が年々ふえています。しかし、恐竜博物館の周辺に宿泊施設がないため、日帰りで帰ってしまう観光客が多いです。せっかく全国的にも魅力ある観光地がほかにも多数あるのに日帰りで帰るのは、福井の魅力が十分に伝わらず、もったいないと思います。

そこで、北陸新幹線の福井への延伸も控えている今、観光客に長く福井に滞在してもらえるような工夫や計画などが必要であると思いますが、考えを伺います。

〔東川玖令亜君登壇〕

○議員（東川玖令亜君） 東川です。

次に自然環境や生活環境など環境問題について、2点ほどお伺いします。

一つ目は外来種駆除の問題についてです。

私は小学校のときに、勝山市の天然記念物ミチノクフクジュソウの保全活動を地元の方たちと一緒に行いました。また、中学校のときには、外来種であるセイタカアワダチソウの駆除を行いました。

毎年、勝山の各学校で駆除活動を行わなければならないほど外来種駆除は深刻な問題となっています。坂井市やそのほかの市でも外来種は多く見られています。

在来種を守っていくために外来種を駆除しなければなりません、解決策について考えを伺います。

二つ目に荒れ地、空き家問題についてです。

福井には公園などの公共施設に雑草が生えていて、子供が遊べる状態ではないぐらいの荒れ地が多く見られます。

また民間の土地でも、適切に管理されていない空き家の増加は全国でも問題視されていて、福井も例外ではありません。

荒れ地や空き家が多いと、県外から来る観光客の印象も悪くなると思います。

そこで、荒れ地や空き家の解消の対策をどのように進めていくべきと考えているのか伺います。

〔千京明日香君登壇〕

○議員（千京明日香君） 千京です。

最後に地域医療についてお伺いします。

私は福井県の医療レベルは高いということを知ったことがあります。福井市や坂井市では先進医療が充実しています。しかし、私の地元、勝山には総合病院はありますが、高度で専門的な医療は受けられず、また、医師、看護師の数も少ないです。県全体の医療レベルが高い割に、地方にはその恩恵が受けられていない状況があります。

勝山のような地方の高齢者にとって、福井市の病院に行かなければならないとき、移動や通院

が困難だと考えます。また、地方病院では対応できないような緊急性の高い患者さんが発生した場合、それに対応できる福井市等の病院に搬送しなくてはならず、救命性が低くなります。

これから、ますます高齢者がふえ、地方病院が重要になってくると思われま。さきに述べた地方病院の医師、看護師数が少ないことも含め、地域医療の充実について考えを伺います。

ありがとうございます。

以上で、勝山高校の質問を終わります。

○議長（松見俊佑君） 県議会議員、松井君。

〔松井拓夫君登壇〕

○県議会議員（松井拓夫君） 仲谷議員から、福井県の観光についての御質問をいただきました。

福井県の観光客は、日帰り客が多いのではないかと。福井県に長く滞在してもらえるような工夫、計画はどうなっているのかという質問について答えさせていただきます。

県内のホテル、旅館などの宿泊施設数は、北陸3県で比較すると、石川県が791軒、それから富山県が460軒、福井県は1,067軒と一番多く、潜在的な受け入れ能力はあると考えられます。

平成27年度、福井県の観光客数は、県外客が前年度より約20%増と大幅に伸びて、全体で約12%増の1,271万人と、過去最高となっております。しかし、宿泊客は265万人と、前年度より1.4%しかふえておりません。

私は、観光客に長く福井県に滞在して、宿泊してもらうためには、観光地をルート化するといましようか、複数の観光地を回ってもらうことが重要であろうと考えております。

例えば、朝倉氏遺跡から永平寺、そして平泉寺に来ていただき、宿泊をしていただき、朝、恐竜博物館や東尋坊へというルートはいかがでしょう。福井県は見応えのあるすばらしい観光資源に恵まれております。

県では今年度から県内6エリアにおいて、複数の市町、観光団体、ほかに必要に応じての商工団体、交通事業者、ものづくり、農林水産事業者も参加をして、周遊・滞在型観光推進エリア創出計画を策定しております。そして来年度から、ハードやソフト事業を実施する予定です。

電車やバスの二次交通も充実しなければなりません。

仲谷議員からの提案を生かし、理事者と議論をもっともっと重ねて、観光の充実を図り、たくさんのお客様に来ていただく元気な福井県を目指していきたいので、県民の皆さん方の、魅力づくりなどの協力をお願い申し上げまして、答弁を終わります。

○議長（松見俊佑君） 県議会議員、島田君。

〔島田欽一君登壇〕

○県議会議員（島田欽一君） 東川議員の質問にお答えします。

まず、外来種の駆除について、現在国内に生息する海外から来た外来生物の種類は2,000種を超えると言われております。その中には地域固有の生態系を破壊したり、人体に悪影響を及ぼしたり、農林水産業に被害を引き起こすおそれがあるものもあります。

そこで、平成17年に外来生物法が施行され、侵略的な外来生物が特定外来生物として指定され、平成27年には環境省、農林水産省などにより、外来種被害防止行動計画が策定され、最新の定着状況を踏まえて、防除すべき対象種を明確化しました。本県では17種の特定外来生物が確認され





ており、セイタカアワダチソウなど、特に被害が甚大な外来生物を対象として、生息、分布状況を把握しており、地域住民と行政等が協力して防除対象に取り組んでおります。

今後は、その活動を広めていくことが重要であると思います。次に、公園等の公共施設の雑草の管理についてでございますが、公共施設ということですので、それぞれの施設の管理者が、その目的が果たされるように適切に管理しなければなり

ません。

よってお尋ねのような、子供が遊べないような雑草の状況であるならば、特別の場合を除き、施設の管理者が適切に管理することになっておりますので、管理者に改善を求めることで解決できると考えております。

次に、民間の適切に管理されていない空き家についてのお尋ねでございますが、この問題は、御指摘のとおりさまざまな問題が含まれております。今後ますます増加する傾向であると思いません。

福井県の現状でございますが、総住宅数30万9,600戸で、空き家数は4万3,000戸の13.9%となっております。これは47都道府県中26番目となっております。

空き家に対する問題は、一般的に四つの問題があるとされております。

一つ目は、建物が倒壊、崩壊、屋根や外壁の落下、火災発生など危険な状態にあり、防災性の低下を招くこと。

二つ目は、ごみなどの放置により、ネズミやハエ、蚊、野良犬、猫などが発生し、衛生上の悪化や悪臭の発生により日常生活に影響を与えること。

三つ目は、樹木が家屋を覆うような状態や、多数のガラスが割れていたり、屋根や外壁が大きく傷んでいたりして著しく景観を損なうこと。

四つ目は、これらのほかに、庭木が道路にはみ出して、通行の妨げになったり、動物のふん尿など臭気が発生したり、シロアリの大量発生などで、地域生活の環境保全を図ることができなくなることです。

このような状況にならないようにする最良の空き家対策は、少子高齢化及び人口減少を食い止めることであり、老朽化する建物の更新は、基本的には新たな需要に基づくものにほかなりません。

新たな需要は、人口が減少する中では容易ではありません。特に東川議員のような、若年層の方の大都市への流出を抑え、地方における若年層の定着を図ることが急務であると考えます。県が実施している県内企業の就職の促進や県内大学への進学促進なども、有効な手段であると考えております。

これで私の答弁にかえさせていただきます。

ありがとうございます。

○議長（松見俊佑君） 県議会議員、佐藤君。

〔佐藤正雄君登壇〕

○県議会議員（佐藤正雄君） 県議会議員の佐藤正雄です。

勝山高校の、千京明日香議員から御質問いただきました。

皆さんが生まれ育ってきている勝山市。また、将来勝山市で結婚され、家庭を持たれる方も少なくないと思います。その自分たちの地域で、医療の体制が充実していくのか、病気でも安心して治療を受けることができるのかは、地域の将来にとっても、大事な問題です。

振り返りますと、現在の福井勝山総合病院も、かつての社会保険病院時代に存続そのものの危機がありました。そのときに市役所や地域の自治会の皆さんとともに、勝山市議会や私たち県議会議員も存続を求めて国に要望を何度も届けました。

また、今えちぜん鉄道として存続していますが、電車がなくなったときには、電車の復活を求めて、多くの勝山市民の皆さんや、沿線住民の皆さんの声が福井県庁に届けられ、電車の存続を県議会としても決めたいきさつがあります。

つまり、自分たちに必要なことは、必要ですと声を上げ続けること、そしてなるべく多くの人と輪を広げて、願いが叶うようにしていくことが大切です。

皆さんの地元の勝山市のお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんは、病院や電車の存続で頑張ってくられました。今度は皆さん方が自分たちの地域をより住みやすい地域にいくために頑張ってくださいと思います。

そこで、勝山総合病院に対しては、福井県と県議会が協力して医療体制の充実を現在目指しております。

具体的には、県として救急車の支援を行い、救急搬送に備えています。また、自治医科大学からの派遣のお医者さんについても、2人から3人にふやしていただきました。

さらに、安心して妊娠、出産ができるようにということで、受診は地元で行うセミオープンシステムとなっていますが、これはぜひ勝山市でお産までできるように、県庁の皆さんとも力を合わせて実現していきたいと考えております。

そして現在、奥越地域の人口は6万人強ですが、2040年には4万人弱になり、5人に2人は65歳以上となります。福井県が策定した計画でも、緊急性の高い脳卒中などの救急医療については、勝山市で行えるように、また、がん医療などの高度医療は、福井市内の病院を活用していただきながら、治療を終えた患者さんが地元で継続した治療を受けることができるような計画をつくりました。

これを画餅に終わらせないように、私たち県議会も、地元の皆さんの声をバックに、実現を目指してまいります。

安心して健康長寿で暮らし続けることができる地域にするために、力を合わせてまいります。

○議長（松見俊佑君） ここで藤島高校、チーム「わびさび」の岡井君に議長を交代します。
ありがとうございました。

○議長（岡井悠斗君） 藤島高校、チーム「わ



びさび」の岡井です。

よろしく申し上げます。

チーム「HINO」、光川君、西村君、齋藤君。

〔西村春乃君登壇〕

○議員（西村春乃君） 武生東高校、チーム「HINO」の西村です。

まず、福井の女性の活躍を促進する改革についてお伺いします。

私が通う高校は全校生徒560人のうち61.4%が女子です。そのため、とても明るく活気があります。歴代の生徒会長も女子生徒が多く、学校祭などで女子ならではの斬新なアイデアを生み出してきました。

また、過去11人の校長先生のうち4人が女性であり、女性が活躍する高校として、30年の歴史を刻んできました。

内閣府男女共同参画局調査によれば、平成27年7月1日現在、都道府県議会女性議員の割合は9.7%であり、47都道府県の女性知事は2人しかいません。

学力や体力、そして幸福度日本一を達成した福井県において、次の目標は女性活躍日本一であり、それを全国に発信することだと考えます。

そのために、県議会議員定数の半分を女性にするという提案をさせていただきます。

各選挙区の定数を偶数にして、男女同数の議員を割り当てます。例えば、定員2人の選挙区では、男性、女性それぞれの最多投票獲得者が当選します。

最初は、男性候補者の得票が多いかもしれませんが、女性議員が発案した政策が成果を上げれば、女性候補者に対する得票がふえてきます。男性、女性ほぼ同じ得票数が得られるようになったときには、男女同数の議員定数を撤廃します。

県民の代表である福井県議会議員に占める女性の数がふえることで、ますます女性が暮らしやすく、活躍できる元気なふるさと福井が実現すると考えますが、県の所見を伺います。

〔光川哲平君登壇〕

○議員（光川哲平君） 光川です。

さらに、未来のふるさと福井を担う女性リーダーを支援するための奨学金制度の創設についてお伺いします。

福井の女性有業率や共働き率の高さは日本一です。また、結婚や出産後も正規労働者として働く人の割合が高い一方で、女性管理職の割合が低く、男性との賃金格差が大きいことが指摘されています。このことは、女性の大学進学率の低さと関係があると考えます。

平成27年度の文科省の学校基本調査では、本県男子の大学進学率が51.1%、全国比プラス0.1%であるのに対し、女子の進学率は41.9%、全国比マイナス4.7%となっています。

そこで、大学に進学する優秀な女子学生に奨学金を貸与し、卒業後、県内で働いている間は、県が本人にかわって奨学金を返還する制度を創設することで、未来の女性リーダーを支援したいと考えますが、県の所見を伺います。

これで武生東高校の質問を終わります。



ありがとうございました。

○議長（岡井悠斗君） 県議会議員、笹岡君。

〔笹岡一彦君登壇〕

○県議会議員（笹岡一彦君） まず、西村春乃議員の御質問にお答えいたします。

さすがに全校生徒の6割以上が女子という武生東高校だけあって、県議会議員定数の半分を女性にするという、意欲的かつ大胆な御提言をいただきました。私はフェミニストでございますので、心より大歓迎をいたしますが、中には戦慄を覚えている男性議員も少なからずいるのではないのでしょうか。

本県議会でも8年前にはいなかった3名の女性議員が、現在それぞれ男性にまさるとも劣らない勢いで、強い輝きを放ちながら、頑張っておられるところでございます。

海外では、地方議員でも女性議員の枠をあらかじめ何割か確保するクォータ制が導入されている国は30カ国ほどありますが、日本ではまだ法律が制定されておらず、女性議員の比率も10年前より倍増しているものの、9.7%と世界にはいまだ低い水準となっております。本県議会でも8.3%と、全国平均を若干下回っている状態でございます。

今回の御提言も、そうした壁を突破するものとしての的を射た御提言であります。幾つか心配な点が予測されます。

例えば定員2名の選挙区で、男性は立候補したが女性は1人も立候補しなかった場合に、選挙



自体が成立するのか。定員12名の福井市選挙区の場合に、半分に当たる6名の女性立候補者の確保に無理がないのか。女性の足りない分は任期当初から欠員となり、それが各地で発生すると県議会全体で大幅な定員割れを引き起こす危険性はないのかという懸念がございます。

こうした男女の割合や制度のあり方、それ以前の国による法整備は極めて複雑、かつデリケートな問題であり、時間をかけた準備が必要であります。

す。

このようなことから、まずは県議会議員に立候補するんだという、県内女性の意識を高めることが重要であり、その意識水準に適した制度を現実に即した形で慎重に検討していくことが望ましいと考えます。

福井県では、第2次福井県男女共同参画計画を策定し、女性リーダーが出やすい社会づくりのために、女性の意識改革を行っておりますが、武生東高校でも、ぜひとも女性政治家を育成する意識づくりを生徒会活動等で実施をしていただき、武生東高校出身の女性県議会議員や女性県知事の日も早い輩出を目指していただければ、幸いです。

私ども県議会も、今回の御提言を十分に参考にさせていただき、県議会における女性活躍についての議論をさらに深めてまいりたいと存じます。

次に、光川哲平議員の御質問でございます。

大学に進学する優秀な女子学生に奨学金を貸与して、卒業後県内で働いている間は県が本人にかわって奨学金を返還する制度を創設してはどうかという、大変妥当かつタイムリーな御提言をいただきました。ありがとうございました。

福井県では、女性には限定しておりませんが、今年度からU・Iターン奨学金返還支援

制度をスタートし、県外から県内に就職する学生に対して奨学金の返還を支援しております。この制度では、農林水産、建設、情報関係に加えて、特に女性が多いと思われる薬剤師や看護師、歯科衛生士の職種も対象としております。

これにはその使い勝手や範囲の拡大についての問題点も指摘されておりますが、まだ始まったばかりでございますので、この新制度の効果や問題点を注視しながら、今回の御提言を今後の議論の貴重な参考とさせていただきたいと存じます。

大変、建設的な御提案をいただいた皆様方には未来のリーダーとして、ぜひともこの本県をステージとして活躍をしていただき、福井の新時代を大いに盛り上げていていただきますよう心より念願を申し上げまして、私からの答弁とさせていただきます。

ありがとうございました。

- 議長（岡井悠斗君） ここで、福井商業高校、チーム「上田」の二木君に議長を交代します。
ありがとうございました。

- 議長（二木将行君） 福井商業高校、チーム「上田」の二木です。

よろしくをお願いします。

チーム「はぴらぶ」杉山君、龍田君、平田君、福谷君。

〔龍田惇奈君登壇〕

- 議員（龍田惇奈君） 仁愛女子高校「はぴらぶ」の龍田、福谷です。

福井の伝統工芸の現状と振興策について伺います。

福井県では、江戸時代から地元工芸品に対する保護政策を実施していた歴史的背景もあり、今もなお、たくさんの工芸品が残されています。

特に、昨年の日テレ系人気番組「ザ！鉄腕！DASH！！」でも取り上げられた越前和紙や、若狭めのう細工など、国指定伝統的工芸品は品目数、生産額ともに全国上位にランクされています。

しかし、今日、我が国の伝統工芸品の企業数及び従業者数は年々、減少している傾向にあります。

資料によりますと、企業数は昭和54年の3万4,043社から平成24年には1万3,567社と半減し、従業者数は昭和54年の、28万7,956人から平成24年には6万9,635人と4分の1にまで減少して



ます。

これに伴い、福井県にも同じような傾向が見られます。

また、安い外国産製品の普及や、生活様式、価値観の変化などによる需要の低迷も深刻化しています。

こうした中、県では、「伝統工芸職人塾」や「国体・オリンピック用品販路拡大ネットワーク」などの事業を行い、後継者の増加や福井の優れたも

のづくり技術、魅力ある伝統工芸品などの県産品の販路拡大、認知度向上を目指しておられます。

また、高級志向の強い、海外のバイヤーを対象とした国内展示商談会に、越前漆器の宝石箱、フォトフレーム等を出展するなど、海外進出にも努めておられるとお聞きしました。

〔福谷有紗君登壇〕

○議員（福谷有紗君） もちろん、県外や海外に対する認知度の向上も重要ですが、私たちの生活に果たしてどれだけの伝統工芸品が根づいているのでしょうか。

家や学校など、身の回りの環境を見渡しても、食器や家具などに伝統工芸品はほとんど見られません。

平成25年に、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、日本文化は今、世界から注目されつつあります。

その中でも、福井の伝統文化は世界に誇れるものだと、今回調べてみて実感しました。

そんな我が県の伝統工芸のすばらしさを、今の私たち県民はよくわかっていません。

本当に伝統工芸品産業を守り育てる意志があるならば、海外での需要開拓に加えて、例としては学校給食の食器を一部漆器にかえるなど、今一度、私たちの生活の中に伝統工芸品を浸透させ、根づかせる大胆な政策が必要かと考えますが、お考えを伺います。

〔杉山美月君登壇〕

○議員（杉山美月君） 杉山、平田です。

福井の観光政策について伺います。

福井県は、豊かな自然やおいしい郷土料理、きれいな水などの優良な観光資源に恵まれています。

しかしながら、中枢都市に比べて、まだまだ知名度が低い県の一つです。

福井県が観光についてアピールしていくためには、「ふるさと力」を生かしていくべきだと考えます。

福井県は、「極める」「輝かせる」「伝え、動かす」「心をつかむ」「世界から招く」の6つを基本戦略として、観光の推進を行っておられますが、「極める」という観点におきまして、より発展したものを求めていくというよりも、福井県にしかないものをきわめていくべきだと思います。

2014年、福井県は幸福度ナンバーワンに輝きました。

その理由として、仕事や教育面、生活面で過ごしやすいたことが挙げられています。

こういった環境があることも、福井の魅力の一つです。

〔平田直君登壇〕

○議員（平田直君） それから、福井県には、東尋坊や勝山の恐竜博物館、朝倉氏遺跡などといった名所や観光スポットが数多くあります。

また、越前ガニ、越前そば、ソースカツ丼などといった名産品も豊富です。

私たちが修学旅行で訪問したシンガポールでは、そのようなその土地ならではのものを全面的にアピールしたり、さまざまな民族の町並みそのものを観光名所にしたりしていました。

現代ではネット社会で、SNSが普及しています。

ですから、そのSNSによって、福井の特産品や観光スポットが全国の人たちに知れ渡るといいと思います。

例えば「越前そば」について、単に主食としてアピールするのではなく、そばを使って私たち若者も人気が出そうなスイーツなどをつくって、発信するというのはいかがでしょうか。

SNSは、今や若者の情報交換の必須アイテムとなっています。

うまく利用することができれば、福井ならではの魅力を広くアピールできると思いますが、考えを伺います。

また、2018年に開催される福井国体に加え、2022年度の北陸新幹線敦賀開業を控えて、県外の方にとって福井県がいかに魅力的であり、立ち寄りたいと思えるかが、観光発展の重要な点になると思います。

そのために、観光客向けに、福井県ならではのものを知ってもらえる、体験型の企画をふやしていくことが有効でないかと思いますが、考えを伺います。

以上で仁愛高校の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（二木将行君） 県議会議員、細川君。

〔細川かをり君登壇〕

○県議会議員（細川かをり君） 伝統工芸品についてお答えをします。

本県には越前漆器、越前和紙、若狭めのう細工、若狭塗、越前打刃物、越前焼、越前箆笥の7品目の経済産業大臣指定の伝統工芸品があり、越前指物など22品目の福井県郷土工芸品があります。

今、越前打刃物はクラッドメタルという材質を生かした、ステーキナイフが大ヒットし、海外からも評価の高い包丁が、何か月待ちの人気を博し好調です。

しかしながら全体的には、お調べのとおり、需要が低迷し、企業数、従業員数が減少しているのが現情です。

これまで脈々と引き継がれてきた職員さんの技術を、未来へ継承していくことが、現在を生きる者の責務であり、売上向上が必要です。

県では、御紹介いただいた国体・オリンピック用品、国内外の展示会での販路拡大、認知度向上の策とともに、私たちの生活の中への浸透、定着策も図っております。

学校給食での漆器の食器導入は、すでに鯖江市で取り組まれています。県としても県内小中学校での導入支援をするとともに、新一年生全員に箸を贈呈しております。

子供のころから伝統工芸のよさになじんでいただけるものと思っております。

また今年度は、県産材で家を建てる際に、越前和紙をお使いいただく場合の助成制度を創設しました。

和紙の壁紙は調湿作用があり、気持ちのいい物で普及することを願っています。

伝統工芸品は、職人さんの匠の手業によるもので、比較的高額ですが、天然素材でシックハウスを抑制したり、防虫防腐効果や調湿作用があったり、調べるほどに、日本の生活にマッチした先人の知恵が詰まっています。私は、その付加価値を分析的にわかりやすく説明することで差別化を図り、普遍的なものを守りつつも、そこに現代の生活様式、需要に合うものや、デザイン開発を加えるリノベーションが必要だと考えております。

この秋、11月24日から27日までの4日間、第33回伝統的工芸品月間国民会議全国大会がサンドーム福井をメイン会場に開催されます。県内伝統工芸品の展示、販売、若手職人の作品展、親子体験イベントなどが予定されております。



また、サンドーム管理棟をものづくりキャンパスとしてリニューアルしている最中です。これらを契機に、県民の関心、理解が高まり、日常生活に普及浸透することを大きく期待しているところですが、それが龍田議員、福谷議員のおっしゃる、大胆な政策たり得るか見きわめ、今後も今回いただいた質問の、生活の中への浸透という切り口を大切にしながら、さらに理事者と協議してまいります。

○議長（二木将行君） 県議会議員、清水君。

〔清水智信君登壇〕

○県議会議員（清水智信君） 杉山、平田両議員の質問にお答えしたいと思います。

まず初めに、SNSを活用し、福井ならではの魅力をPRしたらどうかとの御質問にお答えします。

本県においては、平成27年3月に策定された福井県観光新戦略の「伝え、動かす」という戦略において、インターネットを活用した、情報の発信という戦略も掲げられています。その効果的な活用により、本県の魅力をより広く多くの人に伝えるための取り組みを強化しており、例えばふるさと県民として登録していただいた方には、民間事業者と連携して、SNSなどを通じていろいろな情報を発信することとしております。

しかしながら、県からの情報発信には限界もあることから、地元の民間企業や若者を中心とし



た住民の参加を促進することで、SNSによる発信が活発になれば、観光客の誘致だけでなく、福井県のおいしい食材や、伝統工芸品を、全世界に発信できるという大きな可能性もあると考えます。県でも先日フェイスブックに福井の魅力を県外の人に発信するサイト、「おいでよ！ふくい」を開設しました。ぜひこの議場にいる方で、フェイスブックをやられている方がいましたら、ぜひいいね！とシェアをよろしくお願いします。

ただ、現状、このサイトもまだいいね！が600件程度でして、なかなか難しいものがあると思いますが、ただこれに関しても、ただ発信するだけではなく、いかに多くの人に伝えるかが課題であります。

これも私の個人的な思いではありますが、まだまだ福井県は、知名度もあまりありませんので、県としてしっかりと、SNSやマスコミをもっとうまく活用し、強力に福井県の魅力を県外に伝えるべきと思います。

先ほど、そばのスイーツもありましたが、福井県産そば粉は日本一の評価を受けており、そのそば粉を使ったスイーツは、日本一のスイーツになる可能性もありますので、今後の議論の参考にさせていただきたいと思います。

次に、体験型の企画をふやしてはどうかという問いにお答えいたします。

県内各地域で、農漁業体験、工芸品づくり体験、食べ物づくり体験、スポーツ体験、恐竜化石体験など、さまざまな体験が企画されていますが、今後は、このようなスポット的な体験企画に加えて、福井の暮らし全般を体験していただきながら、その中で各分野での体験企画に参加していただくなど、複数の体験を組み合わせたような、総合的な企画が必要と考えます。

Iターン政策においても、移住を希望する人の多くは、一度行ったことのある地域を選択するようなので、体験型観光とIターン政策をセットにした取り組みが、今後にも必要になると考えま

す。

これは私の個人的なことでもありますが、私自身も県外の友人が遊びに来ますと、一番喜んでもらえるのは、そば打ち体験や、紙すき体験など、体験型です。

しかし、交通の便が不便であるとか、各観光地が連動していないなどの問題もあります。そういった問題を解決するためにも、いろんな若い人のアイデアが必要ですので、今後お二人の議論を参考にして、議論していきたいと思います。

○議長（二木将行君） ここで、鯖江高校チーム「王山」の山口君に議長を交代します。
ありがとうございました。



○議長（山口立真君） 鯖江高校、チーム「王山」の山口です。
よろしくをお願いします。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
日程第4 福井県を元気にするための決議案

次に日程第4 福井県を元気にするための決議案を議題といたします。

チーム「王山」、横井君より本決議案の朗読を願います。

横井君。

〔横井泰良君朗読〕

○議員（横井泰良君） 私たち平成28年度、ふくい高校生県議会議員はこれからの福井県を元気にしていくために、今後、次のことに取り組みます。

1、まちづくりへの積極的な参加について

住みよいまちづくりを推進していくため、まちおこし事業、地域の清掃などのボランティア活動に積極的に参加していきます。

お年寄りと子供たちが元気なふるさと福井を目指すために、お年寄りと子供たちをつなぐ場、例えば祭りやイベントなどを企画、実施して交流を促進していきます。

2、ふるさとへの貢献と情報発信について

私たちが育ててくれた福井県に恩返しをし、ふるさと福井をよりよくしていくために、福井県に帰って就職するなど、次の世代の担い手として、社会に精いっぱい貢献していきます。

県内の若者の定着と県外からのU・Iターンを促進するために、幸福度日本一をPRの要とし、福井県のよさを情報発信していきます。

私たちが県外に進学や、就職した場合には、交流人口をふやし、ふるさと福井県を活気づけるため、福井県の魅力を他県の人に知ってもらうようアピールしていきます。



3、政治への積極的な参加について

日頃から政治や経済問題等に高い関心を持ち、新聞やテレビなど、さまざまなメディアを活用して、情報を収集し、正しく理解、判断していくよう心がけます。

選挙については、県内に住む限り投票に行くのはもちろん、県外にいる場合でも不在者投票などの制度を活用し、選挙権を行使していきます。

家族や友達などに、選挙の大切さや必要性を伝え、選挙に誘い、選挙に関心を持つよう促していきます。

県内の学生や県外の大学に進学した福井出身の学生の意見を政治に反映させるため、福井学生会議を開催し、県議会や市長議会に政策を提言して、さらに幸せで暮らしやすいふるさと福井にしていきます。

以上、決議します。

○議長（山口立真君） これより、本件に対する質疑に入るのでありますが、ただいまのところ通告者はありませんので、ないものと認め、本件に対する質疑は終結いたしました。

○議長（山口立真君） これより、本件に対する討論に入ります。

チーム「AOI」立石君、チーム「HINO」齋藤君、チーム「上田」畑君より賛成討論の通告がありますので、許可することにいたします。

立石君。

〔立石 想君登壇〕

○議員（立石 想君） 武生高校、チーム「AOI」の立石です。

さらなる提言も含め、賛成の立場から討論を行います。

以下賛成の根拠を3点申し上げます。

第1に、若者がまちづくりに参加することで地域が活性するからです。

まちづくりへの積極的参加という点では、まちおこし事業を深く掘り下げ、県外から福井を訪れる人々が主体となって参加できる事業を展開していくべきだと思います。

また、お年寄りと子供たちがイベントなどを通じて交流するネットワークづくりを支持します。

第2にふるさとへの貢献を情報発信により、若者が地域に貢献できるからです。

ふるさとへの貢献と情報発信についてという点では、交流人口をふやすために、首都圏で福井の食を生かしたレストランや漆器、塗箸を積極的に売り出していくこともできると考えます。

第3に、若者の政治への参加により、若者の声が地域の政治に反映されるからです。

政治への積極的な参加についてという点では、さまざまなメディアを通じて情報を収集し、不在者投票などの諸制度を利用して、若者の投票率を上げ、若年層の声を政治に反映していくべきだと思います。その点に関連し、福井学生会議の計画を綿密に練っていくべきだと思います。

以上をもって僕の賛成討論とします。

○議長（山口立真君） 齋藤君。

〔齋藤美和子君登壇〕

○議員（齋藤美和子君） 武生東高校、チーム「HINO」の齋藤です。

さらなる提言を含め、賛成の立場から討論を行います。

賛成の根拠を3点申し上げます。

1、若者の力を県の発展に生かせるため。福井県に帰って就職するなどについては、私たちが





インターネットを通じて議論したりすることなどを通じて、政策を立案し、県議会や市長議会に提言していきます。

以上をもって、私の賛成討論といたします。

○議長（山口立真君） 畑君。

〔畑 佑弥君登壇〕

○議員（畑 佑弥君） 福井商業高校、チーム「上田」の畑です。

さらなる提言も含め、賛成の立場から討論を行います。

まず、まちづくりへの積極的な参加についてです。

今年4月のハピリンオープンをきっかけに、駅前のまちづくりが盛んに行われています。この成功例をほかの観光地にも生かし、地域活性化につなげることで、さらに福井県がよくなると思います。

また、平成30年には福井国体もあります。

これをまちづくりの起爆剤として活用し、国体の応援に来られた他県の人々が、福井にはほかにもよいものがあるのだと実感できる企画などを立案すれば、さらによくなると思います。

次にふるさとへの貢献と情報発信についてです。地方創生のために、福井で生まれ育った私たちだからこそ、情報発信ができることがたくさんあります。

卒業を機に都市部へ進学し、いろいろな知識や知り合いをつくった学生が福井県に新たな考えを持ち帰り、福井県に貢献してもらえるように、これまでのようにU・Iターン就職を促進させていくことで、福井県がさらに発展できると思います。

最後に政治への積極的な参加についてです。

私が考える元気な福井とは、乳幼児から高齢者全ての県民が活力に満ちた生活を送ることのできる福井県です。

今年から選挙権年齢が引き下げられ、多くの若者に選挙権が与えられましたが、若者と高齢者とはさまざまな点において価値観や考え方に違いがあります。今後、少子高齢化が進むと、高齢者の意見のほうに政治が反映されやすくなるのではないかと私は危惧しています。

私たちは一人一人が積極的に政治に参加していくことで、若者としての責任を果たしていくことが大切だと考えます。

以上をもって、私の賛成討論とします。

都市部で就職した場合と遜色なく福井で能力を十分に発揮できるよう、今まで以上に積極的に県が雇用を創出してほしいと思います。

2、若者を中心に福井の魅力に気づくことができるため。県外に進学や就職した場合については、県内に進学した場合もより一層福井の魅力を理解し、発信できるようにしたいと思います。

3、福井の若者の意見が政治により反映されるため。福井学生会議を帰省した際に開催したり、



○議長（山口立真君） 以上をもって、通告による討論は終了いたしましたので、他にないものと認め、本件に対する討論は終結いたしました。

○議長（山口立真君） これより、採決に入ります。

その方法は、起立によって行います。

日程第4 発議第1号 福井県を元気にするための決議案を原案のとおり可決することに賛成の方は、御起立願います。

〔賛成者起立〕



○議長（山口立真君） 起立多数であります。

よって、本件は原案のとおり可決されました。

○議長（山口立真君）

以上をもって、議事全部を終了しました。

以上で、平成28年度ふくい高校生県議会、県議会本会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

○事務局長（小寺啓一君） 高校生議員の皆さん、お疲れさまでした。

ここで畑福井県議会副議長より本日の総評を申し上げます。

〔畑 孝幸君登壇〕

○福井県議会副議長（畑 孝幸君） はい、皆さんお疲れさまでございました。福井県議会副議長の畑孝幸でございます。

一応、終わりましたので、緊張もほぐれたかと思いますが、本日の本会議を拝見した総評を申し上げたいと思います。

本日、高校生の皆様方からは多岐にわたるテーマについて御質問がありました。自由にテーマを選んでいただいたにもかかわらず、その内容は、まさしく今、福井県が重要課題として取り組んでおります問題ばかりでありました。観光や人口減少対策、あるいはまた、原子力政策など、複数の高校が取り上げていたテーマもあり、それはまさに、高校生の皆さん方の関心の高さを表しているのだと、興味深く聞かせていただきました。

また、今年度のふくい高校生県議会においては、新たに決議案の採決も行っていただきました。

この議決案につきましては、福井を元気にするために高校生の皆さん、御自身が将来取り組んでいこうと考えた事柄をまとめたものと伺っておりますが、いずれの項目も、これから福井県を



よくしたいという強い思いが込められていたと思っております。

また、その内容につきましても、若者の視点から真剣に討論をしていただき、賛成意見が3件も出され、そしてまた、採択されたことに対して、非常に頼もしさを感じました。

今回、ふくい高校生県議会を体験していただいたことにつきまして、高校生の皆さん方には、県議会、あるいはまた、議員を身近に感じてもらえ

たと思います。また、意識水準を高める助けともなるだろうと思っております。

今後、さらに積極的に県政に参加して、自分たちの手で福井県をよくしていこう、元気にしていこうと考えていただくきっかけになれば大変うれしく思います。

以上で総評といたします。

どうもありがとうございました。

午後3時15分 閉会

意見交換会

本会議終了後、参加高校生と県議会議員との意見交換会を開催しました。

大会議室

《参加議員》

関 孝治、田中敏幸、斉藤新緑、田村康夫、西畑知佐代、小寺惣吉

《参加高校生》

- 羽水高校 … 鈴木悠太、山本拓弥、橋本翔太、渡邊尊暢
- 鯖江高校 … 横井泰良、山口立真、吉田周平、進士晃平、中西弘也
- 武生高校 … 立石 想、堀井 駿、三田村 歩
- 武生東高校 … 光川哲平、西村春乃、齋藤美和子
- 福井商業高校 … 二木将行、畑 佑弥、上田 諒

【高校生からの感想】

- 今までは、県議会に来ることもなく、どのようなことをしているのか分からなかったが、今日の体験で、県議会がすごく身近なものに感じられ、自分も18歳になったら必ず選挙に行こうと思った。これからあと半年くらいの学校生活に何か活かせることがあったら活かしていこうと思った。



- 今回の高校生県議会では、福井県が抱えている問題の解決方法についてが主であったが、それらは、これから私たち若い世代が解決していかなければならない問題ばかりなので、これから大人になっていく過程でそれらを解決できる道を探れるようがんばりたい。
- 今回、初めて本物の議会を体験して、本物の議員さんもおられて、すごく緊張した。緊張したけれども、本物に囲まれたことはいい経験だったと思う。自分たちが言った意見に対して的確なアドバイスなどもいただき、議員の方々はすごく考えておられるのだと実感した。
- 今日初めて県議会を経験させてもらったが、僕たちの質問に議員の皆さんが的確に答えてくださって、すごいと思った。これからは福井県のために、先ほど答えていただいた政策などをきちんとして、不正などしないように頑張りたいと思う。
- 今日初めて参加してみたが、自分が分からなくて質問したことなどに議員さんがその場でしっかりと答えてくださった。自分が興味を持ったことに対して答えてくださ

ったので、自分なりに政治について興味を持つようになり、いきかけになった。

【議員からの感想】

○西畑議員 今日、女性議員を半分にするという意見が出た。すごい意見だと思ったが、申し訳ないが、私はあまり賛成ではない。やはり、世の中、まだまだ男性の意見は重要だと思っている。

しかし、この部屋にいる高校生は男性が多いけれども、今日の高校生県議会では、女性の高校生議員の方が「これは」ということをしっかりとってくれたことは、非常にうれしく思っている。私も、やはり男女共同参画という中で、女性も声を出さなくてはならないと県議会議員になったけれども、五分五分にするのはどうかと、今、思っている。3分の1くらいでいいのではないかなと思う。3人いたら1人くらいは女性がいてほしい。私たち坂井市選挙区の県議会議員は4人である。そのうち3人が男性で私1人が女性である。今後も、女性がこのような立場で、女性の施策をやりたいと思っているので、皆さんも、女性の方は特にこのような場に来てほしいと思っている。



○関議員 今日は皆さんには本当に元気よく、素晴らしい意見をもらった。素晴らしいかと思う。ただ、学校生活など、いろいろと人と交わっているときに参考になることは、意見を言うときにははっきりとすること、これだけである。福井県人はどちらかと言うと、もじもじとしてはっきり言わない。それはどこと比較してかという意見もあるだろうし、それも一つの生き方であることは間違いないから、それがだめだとは言っていない。しかし、今日のような場合は、意見を発表して自分の考えを訴える時であるから、はっきりとすること。原子力発電所について自分はこう思う、道路についてはこうである、それに対してどうなのかと、はっきりと聞くこと、私はそれが大事だと思う。もちろん、あまり適当でないこともあるだろうし、中身はいろいろ



あるが、はっきりしたことを聞くということ。それに対して相手が何か言ったら、またそれに答えなくてはならない。いろいろな会議などをするときには、相手に対してそのようなことを考えながらやるということ、これが私は大事だと思う。高校生県議会の本題とはちょっと違いかもしれないけれども、私はそのようなことに気が付いたのでしておく。

○田中敏幸議員 みんな偉いと思う。私が18歳の時はどうだったかというと、高校生でも議会とか地域のことなど考えたこともなかった。私も斉藤議員も若い時に青年団をやって、やっと少し地域のことが分かるようになった。みんなでいろいろな体

験をしながら、こうしたほうがいい、ああしたほうがいいと言って、そこから少し政治に興味を持つようになり、県議会議員をやり始めた。関議員が言うように、我々はそんなに話すのが好きなほうではなくて、もじもじとしていた。きっと福井県人にはそういうところがあると思う。でもみんなそれぞれ思うことを仲間の間で互いに話をし、そういうものを一つの意見として伝えていくことが大事だと思う。

今、皆さんは高校生だから、親がちゃんと面倒見てくれているけれども、自分で働き始めると、多分、いろいろなことをする。そうすると、いろいろな課題が見えてくる。そういうことを声にして、政治に参加したり、政治家に伝えたりという機会がこれからは必要になるかと思う。そのような意味で、今から色々と勉強してほしい。



○田村議員 議場では見ることはできなかつたのだけれども、先ほどから意見を聞いていると、いい経験ができたなどと言ってもらっている。

世の中、いろいろな仕事がある。その中の一つが政治家なのかもしれないが、選挙で選ばれるので、政治家だけは特別かと思う。選挙とは何かというと、それぞれの地域で何人の人に自分の名前を書いてもらうかという戦いである。何千人という人に自分の名前を書いてもらう。今回の経験で、この中に、私も政治家を目指してみようかと思ってくれる人がいたらありがたいと思う。世の中、全ての仕事が非常に大事だと思う。政治家だけが素晴らしいわけでも何でもなし。ただ、選挙に投票することは権利である。ぜひとも選挙だけは行くようにしてほしいと思う。また、「この政治家はいいな」という人をつくってもらえたら、なおいいと思う。気軽に話をしたり、「おかしいのではないか」と言えたり、そういう環境をつくりながら、だんだん大きくなっていってくれたら、ありがたいと思う。



世の中をよくするのも悪くするのも、私は政治だと思っている。ただ、政治家は何をしているのか分からないというのも大半の意見なのかもしれない。「不正などしないように」という意見も出たが、テレビの報道で、何か悪いことをしていたとか、変なお金を使ったとか、これも事実かもしれない。でもそれはほんの一部だと私は思う。みんな、少しでも世の中をよくしたいと思ってやっているのが事実なので、そういったところも少し見てもらおうよう、関心を持ってもらいたいとだけお願いをしたいと思う。

○小寺議員 初めて傍聴席から皆さんの意見を聞いていた。本当によく考えた質問だと思った。大人以上に地域のことを思っていると感心した。本当にありがたいと思う。

それから、先ほど決議文を読んでもらい、決議文が賛成多数で可決された。私も、一番大事なのは地域づくり、そして地元である福井県、地元である市町をどのように好きになるかだと思う。

ある調査で、韓国やほかの国の高校生に、「お父さん、お母さん、学校の先生が好きか」というアンケートをとったそうである。韓国では75%以上が「好き」で、そのほかの国も70%以上、一番多い国では九十何%が「好き」であった。日本の結果を誰か知っているか。25%である。残りの75%は「好きではない」との結果であった。何が違うかについては、皆さん考えてもらえればいかと思うが、大事なことは、地域が好き、そして、私たちに教えてくれる人が好き、そして、そのような方と一緒にいられることだと私は思う。こういう機会を大事にしてもらって、そして次のステップに繋いでくれればと思う。



それから、外国人と日本人の違いに、日本人がもじもじしているということもあるけれども、外国人は、踊りにしても、歌にしても、勉強にしても、「どうして」と聞いたり、「もっと教えてくれ」と言ってくる。私が若い人たちに対して寂しく思うのが、そういった勢いが見えてこないことなので、これからは、何かを目指しているときには、そういうこともお願いしたいと思う。そして、地域が好きで、両親や学校の先生が好きという人になってほしいと思う。

このような議会も、人のことを押し上げる役というか、大事な仕事であるので、皆さんにも県議会議員、または市議会、国会議員にチャレンジして、ぜひ、大きくステップアップしてほしいと思う。

○齊藤議員 私も今日の高校生県議会の様子は見られなかったので申し訳なかった。去年から高校生県議会を始めており、私は去年は答弁役をした。みなさんはこれからの人なので、いろいろな意味で頑張してほしいとしか言いようがないのであるが、今、世の中、グローバル化とよく言われると思うけれども、動かしているグローバル化というのは、国際金融資本、メディア、その辺をしっかりと見ていないと、例えば戦争があるといても、国と国がいがみ合って戦争をしているのではなく、過



去、明治維新から含めて、そこに金の動きがあるのである。金を動かして、戦争で儲ける人がいる。そういうことは教科書では教えてくれない。テレビを見ていても、テレビの後ろ側にいる人のことや、テレビが正しいことを言っているかどうかということにいつも関心を持ち、あるいは新聞も、なぜ今日の新聞はこの見出しなのかとうことに疑問を持たないと、テレビも新聞も株式会社である。利益を求めるものである。

だから、いつもそのことに関心を持っていないと、相手の方に引っ張られていってしまう。自分の頭で考えることをしていないと、そうなってしまう。インターネットも本もあるので、この辺を今からきちんと勉強するか、時間があつたら、できるだけテレビなどから離れて、じぶんでそのことを勉強してほしいと思う。

私も今年で 60 歳になった。34 歳の時に町会議員に出て、ずっとやってきたわけであるが、いまだに常に何が正しいのかを考えていないと、新聞やテレビで言っていることがそうなのかというと、ほとんどが、新聞やテレビで記事にならなかつたら誰も分からない。報道している人が、世界中のニュースの中から何をチョイスして報道しているか、その報道していることしか現実ではないような捉え方をしているが、実は報道されていないことが山ほどあるのである。ぜひ、その辺をしっかりと押さえてもらって、グローバルな世界がどのような仕組みで動いているのか、基本的にはお金の流れということが非常に大きい。中央銀行というところが通貨の発行権を持っているが、アメリカの FRB なども、全部民間である。民間人が通貨をつくっているということに非常に大きな問題があるので、この辺をぜひ、帰ったら学校の先生なども含めて協議をしていただくと、世界の大きな流れが分かるのではないかと思う。とにかく、みんなで一所懸命考えてもらいたい。そういう面で、今日の高校生県議会がその一歩になることができることを期待する。

【質疑応答】

○高校生 政治が大事だという話をされていた。僕はこの間の参院選の時に初めて選挙に行ったのだが、今まで公民の授業などでは、例えば国会の定員が何人だとか、そういう枠組み的な話だけを学んで、自分たちが政治に参加したら社会はどう変わっていくのかという具体的な方向性が見えない、そういう教育を受けてきて、どう選挙に行ってもいいか分からなかった。そういう思いを持っているのは僕だけではなく、同じ世代もしくは下の世代も多分同じことを思うと思う。

県では、選挙権年齢が引き下げられたことをきっかけに、選挙に対するレクチャーのようなものを始めたが、それをもっと、例えば小学生にはわからないかもしれないが、中学生などにもわかる形でやっていくようにしたらいいのではないかと思う。

○田中敏幸議員 公民で習って制度はよくわかるけれども、どういう基準で投票するかという問題かと思う。若い時から政治問題といってもなかなか興味がないかもしれない。新聞などを読んだりしても、なかなか分からない部分があると思う。今、政党ごとに政策集というのを出しているが、多分、それを読んでも分からないと思う。そこまでの確にはなかなかできない。まず、選挙に行つて、関心を持って、それから、この人はどういうことを主張しているのか、というふうにやった方がいいのではないかと思う。最初から落とし込むことはなかなか難しい。

皆さんは 18 歳で選挙権がもらえるけれども、私の時には 20 歳であった。では、20 歳のときにどうだったかということ、選挙権があつたから選挙に行つただけである。多分、18 歳も一緒だと思う。ただ、今はインターネットでも、政党がそれぞれどのような考え方をしているとかを検索することができると思うので、そういうところ

から興味を持ってやってもらうことがいいのかと思う。選挙権年齢が18歳以上になっても、教師は中立に教えないといけないし、興味の問題になるけれども、最初から中身を的確に把握するのはなかなか難しい。そういうことで、自分で選挙に行つて、それから、この人はどのような考えか、あるいはこれから政治がどのように流れるかというのを、これから追いかけてもらいたいと思う。

○斉藤議員　初めて選挙に行くと、いろいろな人から何々党の誰々を頼むなどという話で始まると思う。初めから何もわからずに何々党というと、野球チームやサッカーチームを応援しているかのような、何かわからないけれども頼まれたという雰囲気になる。だから、先ほども言ったように、全体の社会がどのようになっている、自分たちがどのような社会を目指している、それで、政策課題として自分は具体的に何を優先しているか、何を求めているか、この部分がはっきりと自分にないと、何を選んでいいかも分からなくなってしまうということがある。

先ほど、女性議員の話もあったけれども、昔、ある人がウーマンリブの活動で、女性の権利拡大の話をした。それに、お金を出した人がいるのである。なぜかという、女の人が働きに出ると、子供たちを学校へ行かせるとか、外の人が子供をみるとか、家に帰ればテレビをよく見るようになる。そうすれば、私はテレビを運営しているし、学校を運営しているから、全て子どもたちは私たちのものだと言いつ方をする人がいるのである。裏社会というとおかしいけれども、そういう人たちがいるということである。そここのところをみんなが考えないといけない。本を読んだりして自分の頭で考えるという人間をつくらせていないのが、今のテレビ漬けにしている社会なので、その辺をしっかりと押さえておいてほしいと思う。

【議員からの結びのあいさつ】

○関議員　今日は、私たちから見ても皆さんの発言は素晴らしかったと思う。大事なことというのは、つかんでいるようでなかなかつかめない部分もあるのであるが、皆さん方はよく勉強して、的確につかんで質問されていたこと、本当に素晴らしいと思った次第である。

福井県議会は1年に1度、このように高校生県議会を企画して、皆さん方に参加していただいているわけだが、皆さん方は、立候補してここに来たのか、先生から指名されてきたのか、どちらか。学校によっていろいろと違うと思うが、みんなどうなのか。



〔「立候補である。」との発言あり〕

○関議員　立候補か。皆さんそうか。立候補が多かったらくじ引きか。問題を解決するときには、くじ引きをしたり、話し合いをしたり、方法がいろいろある。世の中と一緒である。立候補するということは、自分でそういう素晴らしいチャンス

つかむということである。当たるか当たらないかはくじだけれども、しかしそれもチャンスをつかむということである。人生いろいろなことがあるけれども、チャンスをつかまなくてはしようがないのである。ぼうっとしているだけで、何もかも進んでそれでいいかという、そうではない。一生の間にいろいろなチャンスがどれだけあるかわからない。それをみんなつかんでいくのである。皆さん方も我々も一緒である。どのようにしてそのチャンスをつかむかである。だから、常日頃、気を張っていながら、今度はこうだと、人よりも5分間先に考えて生きること、それが大事だと思う。今日は本当にありがとう。

中会議室

《参加議員》

山本芳男、石川与三吉、野田富久、西本正俊、中井玲子、笹岡一彦（傍聴）

《参加高校生》

- 藤島高校 … 清水優花、岡井悠斗、佐原夏帆、高井菜奈子
- 勝山高校 … 千京明日香、仲谷樺純、東川玖令亜
- 若狭高校 … 奥東由己、熊谷凌一、松見俊佑、樽谷倫矢
- 仁愛高校 … 杉山美月、龍田惇奈、平田 直、福谷有紗

【高校生からの感想】

- 普段入ることのできない建物と、その中の議場にも入ることができ、また、その場で現職の議員の方々に質問することができ、大変良い体験をすることができた。
- 初めて議会を体験させてもらい、本当にいい体験ができたと感じている。学生のうちにこのような経験を積むことができて良かった。
- すごくピリピリしているというか、普段感じられない雰囲気を感じた。建物の中も見学させてもらい、すごく良い経験をさせてもらった。僕たちが実際に体験させてもらったのはごく一部だが、いつもこういう会議が行われていて、ここで実際に福井県の行政について話し合っていると思うと、すごく思うものがあった。僕たちの意見に答弁してもらった議員さん方に感謝する。
- 今日は、高校生県議会に参加して、初めて議会が行っている仕事を知ることができた。また、同じ高校生のみんなと福井県について話すという機会もなかなかないので、今日はいいい経験になった。選挙権年齢が引き下げられたし、今回の高校生県議会をきっかけにして、福井県についてもっと考えていくことができたらと思っている。



【議員からの感想】

- 石川議員 山本芳男議員は8期である。私は、市議会議員1期、県議会議員6期目である。昭和5年9月1日生まれで、9月1日になると、86歳になる。皆さん方とは、70歳くらい違うのではないかと思います。しかし、今日の皆さん方の質問を聞いていると、大人以上の考え方である。物事をきっちりと、襟を正しながら意見を述べるということは、県議会議



員——私も6期やらせてもらっているが、それ以上のものを持っている。大変素晴らしいことだと思う。皆さん方の声を一つでも生かしていくのが我々の責任だと思っているので、御支援をお願いします。

- 西本正俊議員　私は控室でテレビ中継を見ていた。皆さんそれぞれ非常に堂々として質問していた。今の感想を聞いていると、総じて、大変良い、貴重な体験をしたとのことであった。今日を機に、ぜひ、政治に興味、関心を持ってもらって、政治に参加してもらいたいと思う。



これまで政治というのは、ややもすると、高齢の方向けの政策に重点が置かれていたのではないかと私は感じている。それはなぜかというと、やはり、投票率が高いということである。若い人は投票率が低いものだから、どうしても政治家が向いていかないということがこれまでであったように私は感じている。ぜひ、皆さん方にそれを変える人材になってもらって、今後、積極的に政治に参加してもらいたいと思うので、よろしくお願いします。

- 野田議員　私は市議会議員3期と県議会議員6期の9期、36年間議員をさせてもらっている。

まず、今日、率直に感じたことは、本当に高校生とは思えないくらい問題意識を持ち、どこにポイントがあるか、今、何が問われているのか、何を聞きたいのかが、しっかりとしていると感じた。傍聴席の隣に中井議員もいたが、一緒に「すごいね」と言いながら傍聴させてもらった。それと同時に、我々もあのような考え方を理事者にぶつけたいという思いを持った。皆さん自身も、あの高校生はそういう考えを持っているのか、そういう問題意識を持っているのかと、お互いの認識が広がったのではないかと思います。

今日の皆さん方の意見は、皆さん方の生活と離れているかもしれないが、皆さん方の視点の中では文字通りそれが生活であると同時に政治でもある。行政でもある。皆さん方が私たち県議会議員に伝えたことは、私たちもしかと受け止めると同時に、皆さん方自身も多分、こういう問題意識を持ってよかったと自信を持ってもらったと思っている。これからもぜひ、普段の生活や高校生活の中でも自信を持って、政治的な視点、社会的な視点を引き続き持ってもらえると、非常に意義があると思う。本当に感服した。



○中井議員 かぶりついて聞かせてもらった。今、野田議員も言われたが、皆さんのストレートな感性がバンバン伝わってきて、ぞくぞくしたり、鳥肌が立つ思いで聞かせてもらった。



福井県議会のこれまでの歴史の中で、2期、8年間、全国で福井県議会だけ女性議員がゼロという時期があった。私は保育士の現場を22、3年経験し、この世界にはやはり、女性の視点、感性が大事だと思って、県議会議員を目指した。世の中には男性と女性がいる。それぞれの考え方、感性を出し合って、みんなでどうしていったらいいかを話し合い、理解し合いながら、つくっていくものだと思う。

先輩たちが築いてきてくれた時代を、これからは若い皆さん方が築いていく時代を迎える。私も精一杯頑張って、皆さんの考え方、感性をいただきながら、福井県の将来の益々の発展のために先輩方とがんばっていきたいと思っている。今日は本当にありがとう。

○山本芳男議員 今日は本会議の答弁者役ではなかったが、今、皆さんの話を聞いて、これからの福井県をどうしようという気持ちが十分あるという気持ちを抱いている。

今年から18歳以上に選挙権が与えられた。その中であって、これからどういう具合に政治に参加するのかということで、今日、福井県議会の様子を体験してもらった。

感想があれば聞かせてほしいと思う。私は、これから皆さんの若い力をこの福井県政にぶつけてほしい。女性の皆さんも多い。嬉しく思う。将来、政治家になろうという気持ちも抱いてほしい。政治にどう関わっていききたいかについても、日ごろから見聞を広めていってほしいと思う。今日参加された皆さんは、ぜひとも将来、政治に参加して、議員になろうという意気込みも持ってもらいたいと思う。



【質疑応答】

○石川議員 今日は議場で本格的な、我々がやっている以上の見事な質問があったけれども、県議会議員になりたい、立候補してやろうという気持ちの方は何人ぐらいいるか。思い切って手を挙げてほしい。全員でもいい。

[挙手なし]

○石川議員 まだわからないかもしれない。

○笹岡議員 去年はそういう高校生がいた。

○石川議員 去年参加した高校生の中には、かなり意気込みのある女性の方もいらした。私はもう年を取ったから、そんなに長くは議員をやらないけれども、議員になっ



たら、ちょっと手ごわいのではないかと感じた高校生もいた。それだけしっかりと日ごろ勉強し、福井県について考えているのだろうと私は思っている。どうか、思い切って手を上げないか。遠慮してはだめである。今日はざっくばらんに、自分の思うことを言った方が、将来のためになる。我々も聞かせてもらおうと勉強になるのであるから、こういう時に遠慮しない方がいいと思う。

○高校生 若狭高校は嶺南にあるが、やはり嶺南と嶺北の連携があまりとれていないというか、どうしても嶺北に偏っている気がする。そのあたりについて、どのように考えておられるか。

○石川議員 嶺北と嶺南との格差ということか。

○高校生 嶺南の中でも、若狭高校は本当に端っこの方にあるので、どうしても差があるのではないかと思います。



○石川議員 格差があるといえば、実際にあるかもしれない。しかし、そのようなことは考えない方がいいと思う。そして、なんといっても福井県の財政を支えているのは原子力発電である。廃炉になるものも含めて15基ある。もんじゅなどいろいろな問題もあるし、敦賀原子力発電所第1号機なども廃炉になり、厳しくなったけれども、嶺南は大きな道路も少なかったし、人口も少ないということで、小浜と敦賀に嶺南振興局をつくって、部長級の職員も配置されている。もうあとは気持ちの問題である。差があるからと言ってひがむこともないし、嶺北の方が強いからと言って、攻撃してくるわけではない。嶺南には県議会議員は7名いる。嶺北には約30名いる。でも、一体となってやっているから、それほど難しい問題ではない。卑下しない。やるぞという気持ちさえ持っていれば、何も問題ない。

○高校生 私たち若者にとって、どうしても政治の仕組みや手続きが複雑に感じてしまう。福井県は大学で県外に進学する人が多いので、今回、18歳以上に選挙権を引き下げても、18歳、19歳だと、19歳の方が格段に投票率が落ちている。私は原因の一つに、不在者投票の仕組みが複雑で、煩わしく感じてしまうということがあると思う。



政治の手続きや仕組みをもっとわかりやすく、やりやすくする方法はないだろうか。

○野田議員 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられた。18歳はまだ地元にいる方が多く、親など、皆さん方が選挙や政治に関して話をすれば、ある程度は情報を得ることが可能で、投票しやすい環境条件にある。しかし、6割方とされている県外に出られた方々にはハンディがあって、投票する場所が非常に限定的で、投に行くのがなかなか難しいものであるから、そのあたりが政治から離れていく第一歩になってしまう。これは、公職選挙法をもう少し見直して改善していかないと、今言われたように、いかがなものかと思う。

それから、今の話からは少しずれるのだけれども、今日の質問、例えば、伝統工芸の話もあったし、環境問題についてのかかなり深い話もあった。原子力関係の話でも、エネルギーとか広い視点の話もあった。こういった今日の話をもう1回、帰ってから学校の中で、クラスやサークル、あるいは友達同士で論議してもらうことの中から、もっと政治に関わろうという意欲も出てくる。議長をはじめ議員からの話もあったし、私たちの友達からもこんな話があったと。我々自身が、皆さんからの提案も含めた発言の中で、なるほどこういう発想なのかと感じたので、ぜひ、皆さんもそのような議論をしてもらえると、非常に心強く思う。政治への関心がさらに広がれば、政治がもっと身近になるし、そんな中で、選挙に出てみようという方が出てくるかもしれない。議員だけでなく、30歳になれば首長選挙にも出ることができる。まずは、日ごろ思ったことを声にする、友達に語る、そして、今日のようなことをさらに広めていって、こうした姿勢を広めていただくと、非常にいいかと私は思う。

○中井議員 私が18歳のころは、この政治の世界は全く遠いところにあった。以前は投票日も1日だけだった。それが今は、期日前投票ができるようになったり、スーパーや大学に投票の場所が設けられたりして、投票率を上げようとしているけれども、それでも上がらないのは、やはり政治離れ、政治に関心がないからなのかと思う。自分のことを思った時に、高校生の頃にそういうことは話に出たことがない。でも、皆さんはこのような機会をもらって、また、18歳以上選挙権という時代を迎えて、何でもいいので、友達とそういう話をしてほしいと思う。新聞を読んで、なぜこのように決まるのだろうかとか、なぜこのようになってしまったのだろうかとか、きっと、いろいろな思いがあると思うので、それをいろいろな方と話をしてほしいと思う。

○野田議員 例えば、どなたかの質問に、大学に進学した場合の奨学金の話があった。それも一緒である。それについて声を出して友達と話してほしい。勉強したいと思っても、経済環境がなかなか厳しいといったときに、それを国がサポートする。そして、福井県に帰ってきて頑張るといった時に、なおかつその何百万円かを返さ

なくてはならないという制度が果たしているのか。私たちはそれをもう少し改善できるのではないかと、次の世代の高校生、中学生の子どもたちにそういう道を開いてあげようではないかという思いで協議するのも一つである。今日は我々も本当にいろいろな課題について考えさせてもらった。勉強になった。

- 高校生　私が高校生県議会に参加して思ったことは、県議会は結構、堅苦しい雰囲気なんだなということである。型が決まっていて、効率的なのはよくわかったのだが、例えば、言いたいときに意見が言えないというような感じもしたので、もっと活発に意見が言える体制にしてはどうかと思った。

それから、議会中は結構静かで、私たちは初めて参加して緊張していたからそのようなことはないかもしれないけれど、慣れている議員さん方は眠くなってしまわないのかと思ったので、もっと雰囲気を明るくしてはどうかと思った。基本的な提案であるが、例えば、討論をするときには笑顔を意識したり、聴いている側は相槌をしたりという意識を持ってはどうか。



- 高校生　補足であるが、今回、話すだけで視覚的に訴えるものが何もなかった。国会などではデータなどをよくフリップにしたりしているので、そのようにすれば視覚にも訴えるものがあって、比較もしやすくなると思う。そのようにいろいろな手段を使って話し合っていくのがいいと思った。

- 西本正俊議員　今日体験してもらったのは本会議なので、堅苦しいとか、自由討議ができない場ではある。しかしながら、4種類の常任委員会があって、所属する委員会では、議会中、所管する内容について自由に議論ができるし、笹岡前議長が中心になってつくった「福井県議会基本条例」にもあるように、議員間討議もできる。そのような場はある。

「ふくい高校生県議会」は昨年度から始まって、皆さんには本会議だけ体験してもらっているのですが、できれば委員会の体験もしていただくといいのではないかと思いながら聞いていた。私もまた提案してみたいと思う。

- 中井議員　データの資料についても、事前に許可をもらって議場に持ち込み、皆さんに見てもらったりもしている。

- 石川議員　皆さんは県議会議員は特別と思っているが、そうではない。我々は普通の人間である。若いか年を取っているかだけで、皆さんと一緒にいる。皆さん方は、今、一所懸命に学ぶときである。一所懸命に勉強をして、将来を見ながらやっていたら間違いがない。今は余計なことは考えずに、学んで身につけることが大事

である。それを生かすのが大人になってからであるから、夢を見ながら学ぶことである。たとえ嶺南地方のような辺鄙なところでも、国会議員もいるし、心配しなくてもよい。

○野田議員 皆さんは全員、SNSはやっているだろうが、そのうちの七、八割の方はインターネットもやっているだろうと思う。間を置くかどうかと思うので、今日帰ったら、インターネットで福井県議会のホームページを見てもらいたい。動画が配信されているので、本会議はこのようにやっているけれども、予算決算特別委員会はこのような形やっているのかと見てもらおうと、また県議会の雰囲気が変わるかと思う。それ以外の委員会も、西本正俊議員が言われたように丁丁発止やっているけれども、これはインターネットでは配信していない。先ほど言われたように、フリップを使ったり、もっとインターネットやiPadなどを活用してやり合うなどすると、本当はもっとよくなるのかもしれない。表情も含めて、議会の雰囲気や環境というのは、まだまだ格式ばっていて、手続きや手順など、いろいろな制約もあるけれども、もっと自由に、簡単にやればよいと思う。諸外国では、急に質問をもらって一問一答するところもあるので、これから改善していきたいと思う。

○笹岡議員 本会議の決議の時に、一人の方が立たなかった。政治家というのは空気を読むことも必要だけれども、空気をつくりだすことが最も大事だと思うので、そういう意味においては大変勇気のある行動をとったと思う。ただ、どうして反対したのか、みんな理由が分からなかったと思うので、それを教えてほしい。それから、反対をするときには反対討論をすると良かったということだけアドバイスをさせてほしいと思う。



○高校生 私個人としては、福井県に残るよりも、都市部に出て行政に携わりたいという思いがある。そのことを考えると、例えば、決議案の「1 まちづくりへの積極的な参加について」は、福井の地に残り、NPOなどの活動として、実際に自分で計画し、宣伝もして実施するというように、どうしても地元にはできないことという認識が強い。「2 ふるさとへの貢献と情報発信について」にしても、福井県に帰って就職というのは、私の中では優先度としては低いので、決議案全体に対しての賛成はできないという意味で起立しなかった。

○笹岡議員 項目の中には、外にいてもふるさとに貢献する機会はいろいろあるので、それをやっという項目もあったと思う。

○高校生 そこに関しては賛成だが、全体としては私には合わないかと思う決議案

だったので反対という形になった。

- 笹岡議員　　そういうことが分かるように、今後は反対理由を十分に説明したほうが良いと思う。ありがとう。
- 高校生　　単純な質問だが、普段の本会議で話す文章は全部自分で作成されているのか。
- 石川議員　　自分で中身を考えて質問しないと、人に教えてもらってやったのでは、熱心さが足りないし、力が入らない。しかし、知らないところを教えてもらうことは大事なので、分からないところは事務局職員に調べてもらう。しかし、ほとんど9割9分までは自分の判断でやらないとだめである。力が入らない。実効性もない。経験で感じたこととしてそう思う。人それぞれで、議員にはいろいろな方がいるので、少しつくってもらう方もいる。いろいろである。
- 野田議員　　例えば、今日の伝統工芸の質問などは、事前にかなり綿密に資料や数値データを調べたと思う。あのような形で、我々議員の多くは、基本的には自ら調査に行き、現場を見て、調べて質問を組み立てている。あとは、今、石川議員も言われたように、ある程度基本的なところを言って、少しフォローしてもらって質問をつくられる方もいる。議員の発言へのスタンスというか、考え方の違いは多少あるけれども、多くの議員は自らつくっている。

【議員からの結びのあいさつ】

- 山本芳男議員　　今日は参加いただき、ご苦勞様であった。やはり、何でも、「習うより慣れろ」である。今日は初参加であろうが、これからもまた参加してほしいし、あいさつにしても「習うよりも慣れろ」というから、そういう機会をたくさん作ってほしい。



今日、政治とは何かということを勉強されたと思うけれども、皆さんに与えられる選挙権で、必ず、自分の思いを1票に行使するという気持ちを大切にしてほしい。自分の気持ちを1票に投ずるということは尊い。それが政治への第1歩である。これから真剣に学んでほしいと思う。

今回、参議院選挙では18歳、19歳の投票率は50%を割っていて、私はがっかりした。初めが肝心である。これからもそういう点に気を付けて、学んでほしいと思う。

◆写真撮影◆



御協力いただいた皆様、ありがとうございました。